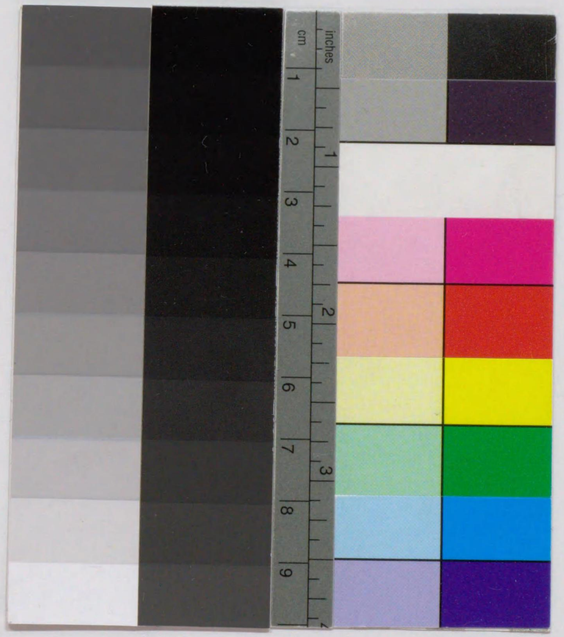
勉游日簿

165
153

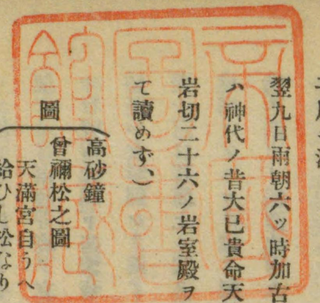


天明八年九月七日朝晴兼葭堂主人爲離別

戊申秋余遊崎留別木世肅雅士

一時晝談荻蘆前、負笈素秋向海天、爲是丹青情未盡、遠隨異客問雲烟、

右詩ヲ送リテ別家内ノ人エモ暇乞シテ暮過發足ス大阪渡海場兵庫艤ヲ
リ乘船シテ順風ニテ八日朝八ツ時頃兵庫驛ニ着ス兵庫ヨリ明石ノ城下
マデ須磨明石トテ名所多シ然共先年尋舊跡ヲ見ル故略ス其夜ハ播州加
子川ニ泊



翌九日雨朝六ツ時加古川ヲ立テ尾上社ニ參リ石室殿高砂ニ參ル石室殿
ハ神代ノ昔大巳貴命天ノ岩　此山ニ上リ陰陽ノサウヲ現シ五十餘丈ノ
岩切二十六ノ岩室殿ヲツクテマシヨ（此所宮の圖あり書入れは手摺れ
て讀めず、）

（高砂鐘
曾禰松之圖
天滿宮自ら
給ひし松なり）

菅丞相御詠　おとゝめのくるみの
からにたまされてひかさの浦をめ
くる山から

夫ヨリ曾根ノ天神へ參ル松ヲ見ルニ高サ一丈フトサ一丈八尺枝十間餘
リ夫ヨリ本海道ニ出ル途中ニテ家來大病ニテ大キニコマル此日ハ姫路
ノ御城下ニ泊此御城下甚繁華成ル所ナリ五重ノ天シ聳秋雲旅宿ハ福中
町灰屋四郎兵衞

翌十日雨六半頃姫路ヲ立尤家來病氣故立延シ正條驛ニ美作ノ追分アリ
此セツ村々祭多シ赤穗御城下ニ道アリアソ川トテ山水早キ川アリ兩岸

大正 15. 6. 22 内交

へ綱ヲ張テ船ヲ渡ス片島ヨリミヤノ尾ノ間ムロエノ道アリ此夜ハ有乎
新屋伊八ヱ泊
翌十一日晴雨有平ヲ立テ三石ニテ芝居アリ奥州秀平天駒ノ場ノヨシ此
所播州備前ノ境アリ夫ヨリインベトテ備前燒ノ出所アリ吉井川トテ大
河アリ是ハ佐州ヨリ流出ル水ナリ（此所圖アリ）
此渡場ノ向ニ橋上ニ番所アリ備前岡山ヱ入船ヲ定ル所ナリ風景甚ヨシ
此日ハ藤井ニ泊新シ屋利兵衞旅宿此夜雨降ハ
淋しさよ旅寢を覺す秋の雨
翌十二日雨藤井驛ヲ立チ二本松ト云所ニ休テ夫ヨリ岡山浦上兵右衞門
ヱ行岡山御城下甚繁華ニシテ奇麗ナリ暮頃浦上氏ニ宅ニ至テ雅談シ及
初更小女琴彈シテ興アリ琴爪ナク素指ニテ彈
翌十三日晴浦上ノ宅ヲ出テ備中ヤ安之助宅浦上氏ト同道行ク安之助余
違棚トフスマノ繪ヲ賴故山水ノ圖ヲ寫遣ス終日箕浦陸次是ハ池田内藏
侯ノ臣ナリ龍潭此兩人ニ浦上ト安之助ト三人ニテ酒宴ス夜入良夜ノ興
ヲ佗
十四日晴岡山ヲ立テ吉備津宮ヱ參拜此日祭アリテ馬市アリ甚ニギヤカ
ナリ海道左リニ雲國寺トテ西國札所アリ岡山板倉ノ間備前備中ノ境ア
リ三軒茶屋ニテ休ム河邊川水急成ル所ナリ舟渡シアリ伊藤播磨守侯御
領地ナリ
（此所鮎ヲ捕ル圖）
右河邊川鮎ヲトル圖伊東家ノ子供四五人モツノ鳥ヲコフシニノセア

ルク河邊ヨリ矢掛間吉備大臣社アリ海道右松山ノ中ニアリ松樹蒼々
護祠（モル）前山頭古廟在秋烟清明素是神州寶政事國風在萬年
（此所吉備大臣廟ノ圖アリ）
右ノ石碑蕭然トシテ眞ニ古風成ルコトナリ夫ヨリ藤ノ棚ト云フ所ニテ
休此夜六半時頃矢掛ヱ着川茂宇兵衞方ニ泊此所ハ小笠原主水樣御地行
所ナリ陣屋右ノ山手ニアリ
翌十五日晴矢掛ヲ立テ備中七日市ニテ休入口七日市川トテ舟渡シアリ
晝時頃カンナベ驛ニ至故郷ノ人司馬江漢ニ逢夫ヨリ同道ニテ大渡リ川
トテ川アリ二十間斗ノ間一枚ノ橋ナリ駕ヨリ下リ渡ル山手ト云フ所ヨ
リ福山城ミエル備中備後境アリ海道ノ左ニ松永トテ湊アリ此日祭ニテ
角力アリニギヤカナリ此夜ハ國今ツニ泊藤屋源助尤江漢ト同宿ス
翌十六日今津ヲ出テホウシ山ヲ越テ山中ニ備後藝州ノ境アリ山中松樹
多シ夫ヨリ尾ノ路ト云所ニ至ル是ヨリ舟ヲカリ乘ル尤江漢同道ニテ九
ツ時頃出帆
（此所藝州尾ノ路湊之圖、尾路ヨリ海上ノ圖、此書入ニセ戸田島、
二ツ小サキ島ハ大鯨小鯨ト云フ、春三月五島ヨリ鯨來ルト云フ、
藝州ヨサキ舟中ヨリ南ニ望之圖、藝州三原城圖、此書入ニ此處ニ
蛤瀨トテ水ノハヤキ處アリ、藝州海上之圖、藝州宇島ヨリ望圖、
安藝廣島之圖ノ七ヶ所ノ寫生圖アリ）
尾路ト云所ヨリ廣島ニ至マデ海上小島大島多クアリ誠ニ奥州松島ノ風
景如此ナラント思フ海上八九里ノ間人家ナキ所アリ岸穴ニ盜人今ニ住

居ス所モアリ其所ノ者夫ヲ其マヽ置トミエ普天ノ下ニモ如是此様ナ所アリケルニソト江漢ト語テ廣島ノ湊壹餘リ至シニ俄ニ風起テ船ヲ宇島ト云所ニ掛ル宮島アサ島眼下ニ望風景甚佳ナリ

翌十七日朝晴五ツ時過鷹島ニツクネコヤ橋下ニ着御城下尤繁華ニシ奇麗ナリ夫ヨリ江漢ト同道ニテ藝州イノ口ト云所ヨリ乘舟テ宮島エ行

（此所イノ口之圖アリ）

暮七ツ時前嚴島エ着岸ス先明神禮拜ス丁ノ内ニ猿鹿遊イテ紙合羽ヲ着シテアルケバ鹿コレヲクハントス奈良ノ丁ノ如シ其風景相州江島ノ如クニシテ廣

（此所宮島明神海上望之圖、書入ハ六月十七夜舟管絃廻廊百八間アリ、外一圖アレド不明）

海上華表雷火ニテ燒今ハナシ

宮島額ノ芙容山之圖絶頂クマニテ雪ヲカキシ大額也甚奇ナルカキヨウ額第一品也（圖アリ）

宗紫石ノ畫孔雀ニインコノ繪アリ

外額　嚴島大明神　内　伊都岐島大明神

後奈良院御事

滿しほのなかはひたせる神の門やたつのみやこにたちつゝくらむ

法親王兼如

其夜折ヨク回樓燈明トホリ誠日本無双之勝景ナリ其夜宮島市中イヨヤ久兵衛方ニ宿

翌十八日雨司馬氏ハ此島ニテ風景ヲ寫トテ殘ル余用事アリテ別ナス

晩秋與司馬氏暫同道別干嚴島

山川好景暫同遊俱宿海天嚴島秋百八回樓分手處孤舟照見靈燈明

夫ヨリ司馬氏別テ朝六半頃舟ニノリ島々風景ヲ見ルニ太湖ノ如クナル島アリ秋雨淋シク見ルニ鹿一疋浪打際ニ遊シ景誠ニ絶景言葉不盡此間海上三リ餘ナリ四ツ時玖波驛ツキ夫ヨリ周防關戸驛ニ至リ岩國錦帶橋ニ至リ名高橋ナリ

（此所錦帶橋之圖、書入ニ此間小瀨川トテ境アリ此川ニテ鮎イカリニテカケル）

其橋下ノ石ヲ取リ懷ニス岩國余程ノ人家ナリ夫ヨリ松山ヲ越テ本海道ニ至錦帶橋下ノ流ニテ周防縮ヲサラス其夜ハ杜野驛大藤屋市松方ニ宿

翌十九日朝杜野ヲ立テ此邊半路斗程ツヽノ繼場ナリ中ノ峠切通七曲リ坂アリ東海道鈴鹿峠ノ如シ玖河本郷驛ニック此所ニテ雨晴夫ヨリ高森驛ハ宿中水流木曾海道ノ如シ此邊縮サラシアリ此夜ハ周防德山毛利石見守樣御家中長沼權石衞門方ニ宿是小阿瀨專右衞門兄ナリ林茂助殿ニ逢是モ緣家ナリ

翌二十日晴風吹長沼氏宿ノ端マテ送ル德山ノ右望ニシクマ山コン現アリ左ハ大島トテ海上ニ島アリ夫ヨリトン田驛此間山多山越テ海邊多シ富海驛ハ海邊ナリ向ニ島多シ防州宮市驛海手ニ毛利式部樣ノ御隱居所アリミタシリ湊ト云フ甚繁華成所ナリ此邊萩燒茶碗多シ萩エ追分アリ夫ヨリ佐ノ峠ニカヽリシニ大雨大雷ニテコマル此邊祭アリ角力場ヨリ

見物ノ人多ク歸ル此夜五ツ時頃小郡驛泊竹屋吉郎兵衛方夜水車聞

翌廿一日晴六ツ小郡ヲ立テ山中マテ松林ノ小山道防州長州ノ境アリ夫ヨリ山中驛ヨリ船木驛ノ間シタアリ是ハハシニ成ル名物ナリ此船木山ニ石炭アリ所ニテ此石ヲタキテニタキヲスルナリ厚狹市ヨリ吉田驛ノ間蓮臺寺坂トテ高キ山アリ此夜ハ吉田驛ニ泊ル萬屋宇吉

翌廿二日晴吉田驛ヲ立テ小月（ヲツキ）驛ヨリ長府ノ間毛利讃岐守侯陣屋アリ海道右ノ山手夫ヨリ馬ノセト云所松ノ林アリ尤海邊ナリ海天遙ニ九州初見ル風景佳ナリ長府驛ニ至ル此所ハ毛利甲斐守侯御城下ニテ繁華ナリ御城ハ左ノ海手ニアリ丁家共ヨシ夫ヨリ赤間關マテノ間海邊ナリ赤馬關入口右ノ山手ニ阿彌陀寺トテ古寺アリ八島ノ戰ニ打マケテ此寺ノ海ニ安德天皇シスアリ尊骸ヲ此寺ニホウムル御廟アリ（八歳安德天皇尊像圖アリ）

今そしる御裳川（みもすそがは）のなかれには浪の底にも都ありとは

山門制札

禁制

赤間關阿彌陀寺

一於寺邊殺生事
一竹木採用事
一於樓門內馬庭乘事

右任先記令停止之若於背此旨輩者可處嚴科者也

元和四年閏三月廿一日

參議大江秀元判

猛氣一身承
主恩百官騎
馬從中軍鐘
鳴吹鼓樓船
起愁聽龍車
幸海門

夫ヨリ四ツ時下關ニ着ス此所ハ西國第一ノ市中ナリ赤間石硯アリ大湊ナリ（此所下關圖）右下關ヨリ小倉マデ海上三里ナリ然トモ風波荒キ時ハ一日モカヽリ又半日モカヽルト云此日ハ風靜ニシテ渡海ヨシ然トモ此海上波甚荒キ所ナリ下ノ關センバ屋ヨリ船ニノリ小倉ヱ渡ル

（此所豐前小倉城閣湊之圖、書入ニ小笠原ヨリ舟番所役人出往來ノ札ヲ改ル、キクノ高濱企救今稱長濱）

雲裏布帆下九州赤間關外雨聲收一面碧岸抱漢水數點神洲出灘頭俱語人間千萬事愁哀薄暮百川流相逢雅俗是何處分手小倉城下秋

下ノ關ヨリ小倉ノ間佐々木眼龍島アリ海上ニ與次兵衛谷アリ八ツ時九州小倉大コクヤ九兵衛方ニ着休夫ヨリ境丁ニ至此所ハ豐前筑前ノ境ナリ此夜ハ境丁綿屋喜兵衛方泊

翌廿三日晴境丁ヲ立テ黑崎ニ朝六ツ過至此所ニテシヽカリアリ此邊殺風景ナリ黑田肥前侯領地コヤノセトイヽ塚ノ間ニ古黑田家五萬石ノ城下アリ此邊鶴斗多シタン鳥モアリ川邊ニ鶴二千モヲリテイル赤地川船渡アリ其夜飯塚泊ル

翌廿四日朝雨飯塚立テ雨歇冷水峠トテ九州第一ノ難アリ誠ニ九州ノ箱根山ナリナデ峠ヨリ太宰府天神ニ行一體古風アリ土地ヨロシ然トモ田舍ナリ昔ハサソフシラナランカ今ハ夫々ニ人家アリ社ヨロシ飛梅アリ

（此所筑紫太宰府天神之圖、書入ニ江戶龜井戶天神ノ如ク池ノ中遊魚多シ子供ハセヲ買）

菅神廟上落穗秋一樹古梅更自幽千歲靈名長在此水聲山色客心愁

昔來人舍少誰是守春秋古墓幾人識淸明萬歳流社堂行客泣山木遊猿

愁梅樹飛來處菅神舊此遊

ナデ峠ヨリ大宰府之越ル鳥リ越ト云外ニモ道アリ天拜山ハヨホトハキ

ニアリ夫ヨリ小路樵夫田夫ノ道ヲ通ニテ原田ヱ出ル天拜山右ニアリ

（此所筑前天拜山之圖アリ） 夫ヨリ原田ヱノ路ハカタ道ノ際ヱ出ヨホ

ト行テ本海道ニ出ル此夜ハ原田ニ泊ル

翌廿五日晴原田出テ田代ノ間景ナシ轟木驛入口往來手形改番所アリ久

留米ヱ道アリ是ヨリ二里御城遙ニ見エル此夜佐賀御城下泊問屋作兵衛

尤繁華ナル所ナリ

翌廿六日朝雨佐賀ヲ立テ海道左リニ山アリ雪降ル牛月ヨリ小田邊人物

甚惡シ言語不分塚崎邊モアシ、大雨ニテ行路甚難シ此夜嬉野驛大和屋

權兵衞溫泉アリ入甚妙湯ナリ

翌廿七日晴嬉野ヲ立テ彼木マデノ間山路ナリ彼木入口ヨリ山ノ間ニ蒼海

見ル大村信濃侯領地ナリ宿並ヨリ夫ヨリ海邊ヲ通リテ大村驛ニ至此所ハ

大村信濃侯城下ナリ佳地ナリ（此所肥前大村領シカ島之圖アリ）

此夜大村松ノ屋甚助方ニ宿

翌廿八日朝晴六ツ時立テ大村驛出テヱヒノ尾峠風景ヨシ矢上驛ノ出口

佐賀番所アリ肥前島原道アリ枝坂風景ヨシ日見驛ヨリ望

（此所肥前溫泉山之圖アリ、 島原ノ內）

右日見ヨリ長崎ヱ一里半日見峠七曲リナリ宿ノ中ニ石橋アリ （石橋ノ

圖アリ） 以下自筆日記ニ續ク

天明八年秋九月廿八日晝七ツ時前肥前國長崎

西築町服部甚蔵方ニ着 樓上南望 鍋冠山西望

稲佐嶽東望愛宕山南東ニ間眺望小嶋村

正覺寺清水寺山家ニ風景甚佳 夜ニ入服部氏

家内相揃 甚蔵の妹淺の妹野江ニ [illegible]

○同廿九日晴 林次ト年初謁 朝四時藥師寺久左衛門宅ハ

當座町也 本紺屋町清川栄左衛門 本古川町林梅卿

業鍛冶屋町荒木篤ニ進 新町 [illegible]

伊ト廻ル 和又馬込帰 唐後ヲ稲佐 [illegible]

夜ニ入清川栄左衛門ニテ唐人屋鋪ト出シノ頼ミ 秋谷ト

稲佐 [illegible] 諸事ヲ頼ム

○翌十月朔晴 六ツ時起 秋谷 [illegible] ヲ封テ清川氏ヘ頼ム

朝四ツ時 林次ト平蔵ト [illegible] 蔵ト同道ニテ 唐船

見ル 船ノトモニ文字アリ

永寶艘 一艘 萬安日 常慶日

得順日 安利日 大順意日

外ニ六艘 [illegible] 崎掛リアル 萬安船上ニ内ニ聯アリ

海静自随流水送

帆輕常使順風推

右聯萬安船ニアル 唐人座鋪 [illegible]

唐船帰國船八艘アリ 甚 [illegible]

往来ニ [illegible] 船ニ通 [illegible] 也 是ヨリ大徳寺

[illegible]

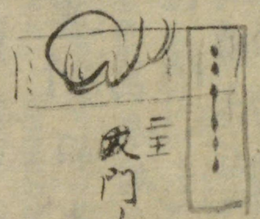
系唐人屋鋪阿蘭陀屋敷下ヲ見ル此屋鋪ヨリ
三國一ト姉坐鋪ヨリ京小坐屋鋪ニハ額ナシ丸山
川崎屋ニ而宿仮ス丈ヨリ長崎山清水寺登ル

乾隆二十八年歳次辛巳孟夏　穀旦

長崎山

湘江仁和弟子王履階敬立

右ニ額アリ甚佳也



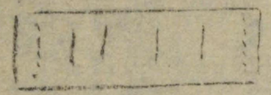
二王
戒門ノ額

壬子中秋　穀旦　吳泰書

慈悲世界

温陵弟子陳

右額



觀音堂額

清水寺

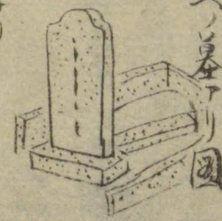
臨淳正傳三十二世
黄檗木庵陳

觀音堂内ノ額

右額

右ニ額ヲ義人ノ書甚妙異也外ノ清水ト違石ノ舞
臺ナリ是ヨリ眺望ヲ丈ヨリ崇福寺ヘ系ル唐寺
ナリ義人ノ墓アリ図

唐人
之墓
図



二十俵入ノ
大鍋アリ
施粥鍋ナリ

右ニ通墓ナリ古クシテ文字分ラス本堂ハ唐人建ル
尋常ノ寺異也甚風流ナルヲナリ於待夜見ノ禎芝ニ
逢室ニ語ル額多ニ是ハ禎芝頼ニ帰ル丈ヨリ七ツ時分帰ル
留守中荒木為之進有ヨリ交者来ル魯陽清川左ニ
見ル秋谷ヘ即前ニ四書画見ヲ處甚歡ニ由ナス秋谷ヘ
翌二日晴林次以平見ヘ買ヲ頼ハ晝六時前ヨリ清川
太系同道ニテ唐人屋鋪系ル清川ノ家来ニナリ
秋帰ヲ為ニ唐人屋鋪仮所ノ勝手ヨリ上ル是ヲ
来ル内番所ニテ懐中吟味ス長秋谷ニ逢筆語ス

書画ヲ頼ミ子ニ乞ル　即上、額二枚竹画一枚
上ル余ニ水筆十本ツレル竹蘭ノ筆二本并竹画
聯二ツ是ヲ秋谷鑑中ヨリ持来ル側ニ程茶春ト
云フ唐人日記ニツケイル甚麁筆也ト妙

姓　朱名衡字芝園号味梅画人

姓　姚名祖申號申一　申五番
別號古慶　書人
七人扇面ノ書ニアラズ

姓　費名鏊陽字得天別號
晴湖
浙江湖州府居住　苕溪人也
杭州創鋳生　画人

右逢雅ノ婦人張谷ト晴湖ヘ筆ノ持テノ聞ニ
余画像通外ニ持ヨウナシ遅筆モ早筆モヤリ
ニクイモノニカリテイヲイナリ各筆ノ掌
出ス書秋谷ニ教ヲ書セイ高ヤセテ病身ノ物ノリ
静ナル人ナ晴湖ハコロテ多クマシ教ヲ黒赤ニテ
セイ中画法妙処アリ印ハ漢ノ印ヲヨシトス

夜入林次平方ヘカカレ書画ノ見ル可亭画ノ
五枚モラウ并清人ノ人ナニモ無漢源山ハ

ニ小幅一枚ノ見ルニ尋常ト異ナリ特妙ナル
故寫置

翌二日晴長鴻ト大坂藩儒ノ書牧山ス昨ヨリ
館中ニ筆語并松画ノ藩儒ヲ呼ヨリ来ル
為ニ進ル先ヨリ迎輸ノ為ス并清川ノ時ノ
館中同道致シ候礼ノ為ス等ノ為師ヲ
ス

翌四日曇ノ薬師寺ノ旅人座ニ後ヨリ杖
ヲツキ宮時ス来師ヲ村賀吉助使ニ来ル雨ニ
小柳久米ヲ山崎助助ト知ル人ニ来ル右ニ仕
大助夜半也ヨリ夜雨

翌五日朝雨晴清川ノ書物ヲス并同像
頼ニ額拵ノ枚　絵扇　五枚　唐紙五枚
秋画　一枚
但浄画五ノニ清ノ

右ニ頼額ヲ筆人墨跡ノ頼ニ出ル別ニ答ニ
取ニ旨ヲ来秋谷用ニ裸ハ来ル八日ニ帰ル
ニヨリ宮時過清川ヲ来ニ呼ト同道ニテ九山ニ
井筒屋ニテ唐人ニ酒宴ニ席ヲ
九山并筒屋井筒屋隣ノ方

壬祿 精湖居ル 周壬祿ニハ初テ逢

僕姓春木名鯤字子魚號南湖
別号石石亭
日本 贊州長嶋藩侍臣江府櫻田人也
夙好丹青之道然無師承故乞
精湖先生之先容也

邑 汝南姓周氏名壬祿 官名 恭先
乳名亥生一字作菴
別字書洗池號仁山
係浙江湖州府歸安縣人

余 先生學書何人之風致

壬 僕初學王右軍石刻濟習柳宗
元董玄宰

余 此便面願賜 妙墨僕大幸也

右扇面ニ
僕來日本幾二十年遍觀風俗
惇然古風故相交書文友不意
今出帆前又訂交南湖先生大幸也
戊申小春五日 周壬祿ハ井旨屋印

余 墨華神妙可賞〻〻
公假遠作海外趨小人何幸得應酬
天涯好景意多恨雅談[illegible]
奉呈 仁山先生 坐下 南湖鯤再拜

余問晴湖
別有画筆妙 刮衣 否

晴湖
多要羊筆

余又問
貴國今有彈琴人物好剛明好之者

晴
僕有両三人然多妙趣

晴湖画法ヲキク 此ニ畧ス丸山之遊君角簗篷
小武部中簗篷屋浮舟引田屋夕栄ト 簗子。
市松其外多笑ス 美麗ナリ何も唐人言葉ヨシ
右婦人ニ 山水ヲ扇ニカキツカハス 唐人ニテホメル
晴湖ノ新巾ヲ余カフリ 用外ノ唐人ノ羽織ヲキ

笠ヲ唐人笑ヒ落ル十二ノ面部ノ如ヲスナ物ノルイン舞
唐人ハウ〳〵ヨハホメル一唐人館内ヨリ持来リシ
酒ノ肴ブタアヒルノ余ニ進ル甚妙ニ晴湖因テ録ト
酒盈リクム

余有俗事多端碧梧ノ旅館
列位安健ニシ
晴湖ニ於ノ晩モフロ

十一 他日應酬文會

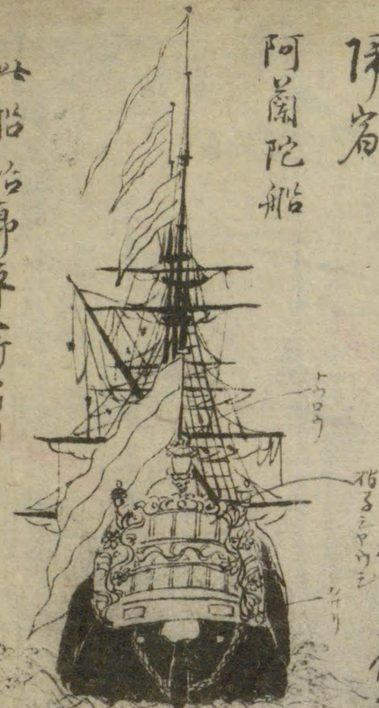
支ヨリ右ニ晴湖ヲ訪ヒテ客舎ニ帰ル

十二 晴日晴湖人伎所ヨリ西人来リ百ヲ五留ノ

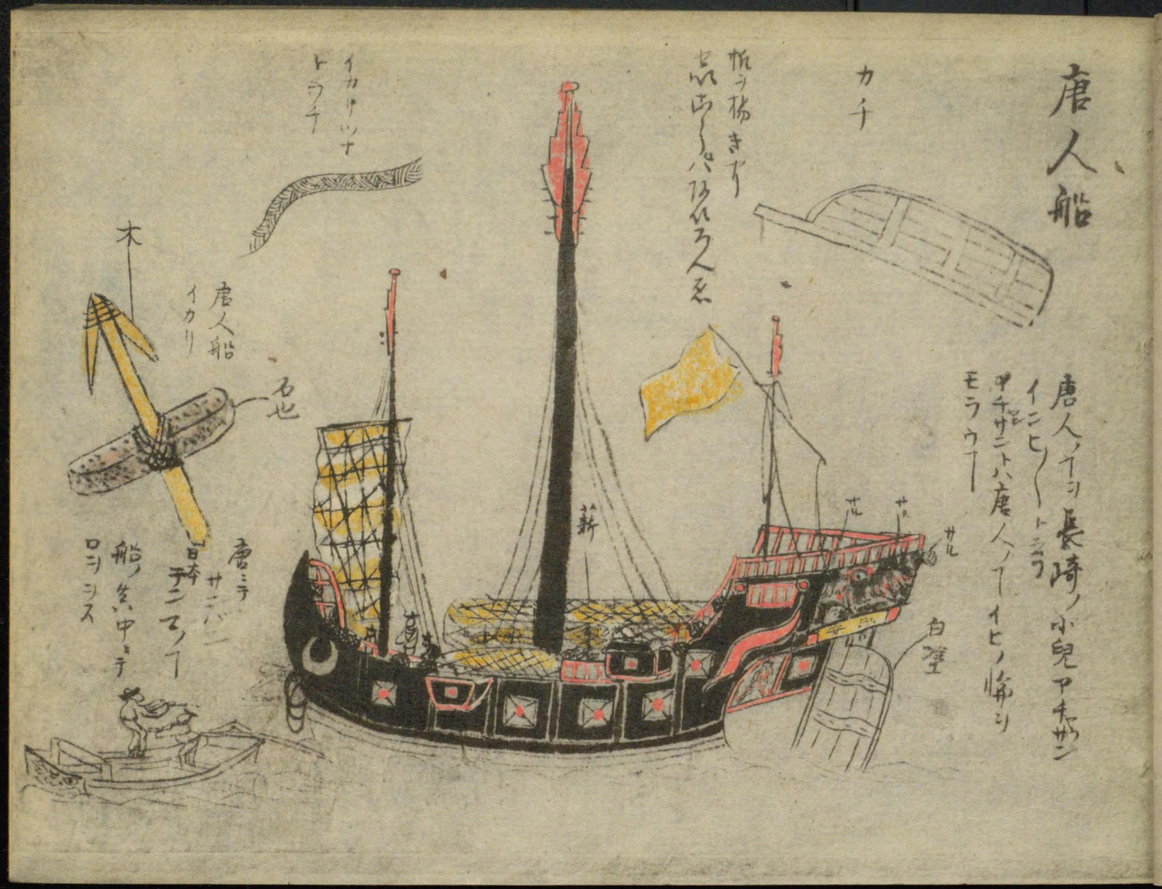
閘ヲスム暑七ツ時前ヨリ江戸油屋広蔵阪平船ニ
乗リ人數林ノ如ク磯田玄慶服部大助武林源蔵
門弟ヲ唐船當時ノ帆秋谷主税ノ船其ノ船
ノ艘捲リノ中ノ押通唐人余船ノ見テホニサニ〳〵ト
チョタ、キサハクヨヤ〳〵ト戯言ス甚妙也支ヨリ恵ス
前ノコキ通西油戸丁ノ西當所ノ通
右者陽春松平雅ニ叩ク処ト於平肥前侯ト
交代ノ番所ナリ當年ハ肥前侯持ナリ支ヨリ
神崎ヲコキ離テ壹里余リ也長崎ヨリ
油上二里余リ行テ阿蘭陀船ニ乗ル山茶海ニ
浮テ悠然ニテ候也余ニ異國船ノ中ニ有一品
大船無文雅ナニ一帆掛ニテアスコニ二艘高ホユ

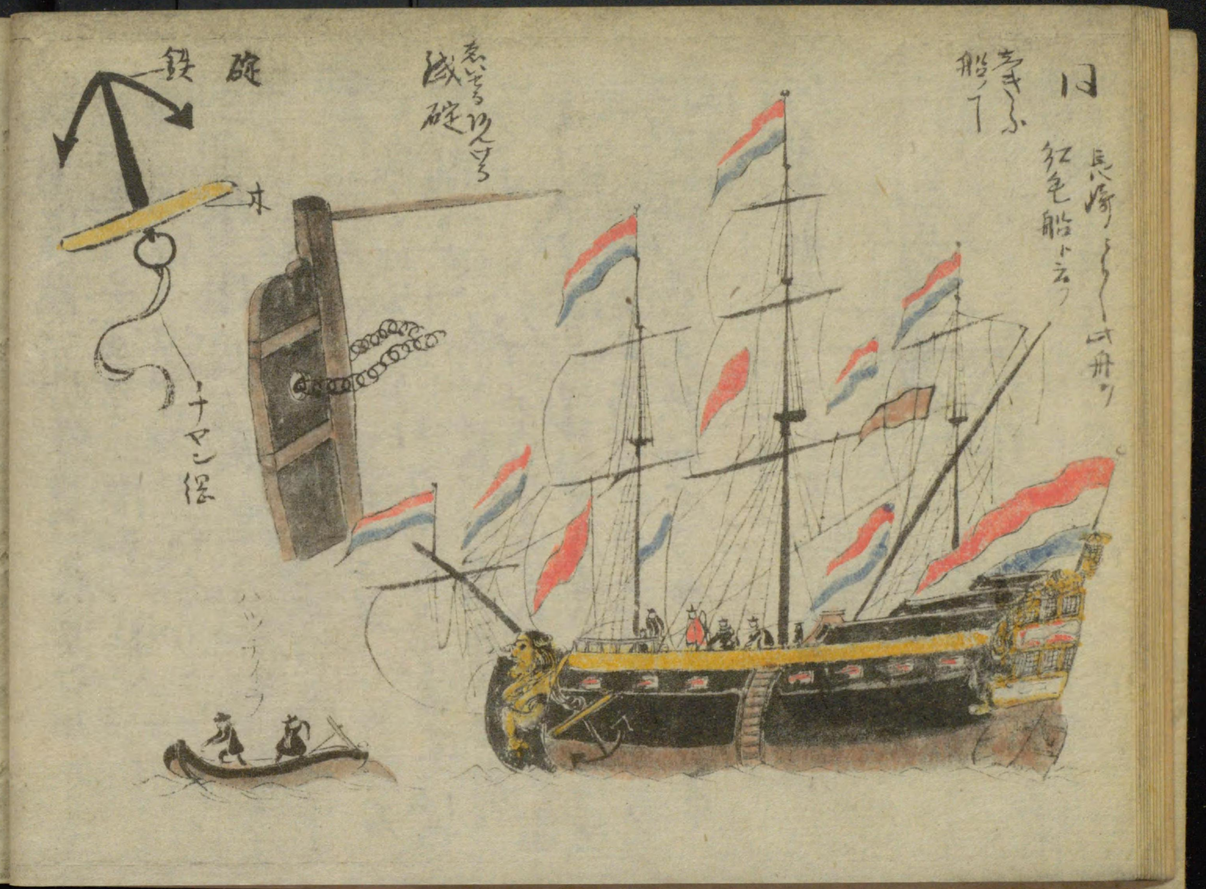
嶋有矮鴻ノ間ニ捲ル其船左右石火矢
十五挺ヅヽホバニウ三拾五六間大帆柱四ヶ
帆ノ間深サ八間長三拾余イカリ室ヲ
三千俵ヲ積ム柱綱ノ長壹リ柱船前カカリ
テノコトニミ師ヨリトモ一面ニ砲ヲ備ル
一帆甚美麗ナリ船塗黒ニテ処ヲ銭石
ニ船ノトモヨリ通リ叶ホウトルノ表甚ヒ也
阿蘭陀船ヲバッテイラト云フ別右船ニ
十人斗ノリハアメルモイト云フ天竺ヨリ
ニキト云言葉ノ通ル次第ナス夫ヨリ極楽ニ
船上リニテ九山夜ニセリ乞遊君多ク
コウニセリ居リ大坂新町ノ如ニ夜六ツ半
帰宿

阿蘭陀船



此船治郎平所有


唐人船
カチ
イカリツナ
トウチ
木
唐人船
イカリ
石也
唐ニテ
サンバン
日本テンマノ
船ノ気中ニテ
ロシシス
薪
白塗
唐人ノアヲ長崎ノ小兒ヤチサン
インヒ〳〵トシテ
ヤチサントハ唐人ノアイヒノ帰シ
モラウヿ


日
長崎ニ〳〵此舟ヲ
紅毛船ト云フ
碇
鉄
木
ナマン綱

長崎湊之全図

沖ヨリ舟中ニテ
望之図

天明戊申冬十月六日
瓊浦舟中
南湖臨寫

長崎湊之図
服部大助鑑定

右同
林資平

翌七日晴 唐人両人旅宿ノ窓下ヲ通行ス長崎ノ小兒多クツキアチヤウサンインヒ〳〵ト言聞クニアチヤウサニト言ハス唐人ト云フトケキリンスヨシ町中ヲブタ雑ヲウリアルク

一九山ニテ唐人館内ヲモロコシト云ウ唐人日本ノ賣買ヲ山屋ト云フ 吾ハツ時ハ京長左衛門殿ニ別ル人ニ乗ル

姓京名璠字伯瑛号枝丘

右ノ仁ハ大助殿ヲイナリ詩ヲ作送ル

翌八日晴 長左衛門殿海上陳和ノ山水ヲ持来リ

見れ其外不レヨリ道具書画来れ
長崎ニ而常用れ
脊籠

旅宿ノ向徃菓子屋 井筒屋 茂兵衛
無好故ニ名ヲヤレ 小林伊三郎 ニ而 自呼伊三郎 西浦蜂蜜
長崎ニテハ 内宝ノ丁ニシニカツサント云フ
然ニハト云コト男女云フヨイト云フ丁シヨカト
云フ又ヨイモノト云フ丁シヨカモノト云フ戸シ
シメルフシセノト云フ妹トヲハホウ 親ニシ云
子供シアイスフシ シツチヨコロウレ アポコエ
行ト云フシアツチシナイ 窓ノフシサコト云フ 男
妹ヲコフ シカルフシガルコチアヨコセト云フ丁シ
コチヤレ

長崎皆 此石橋ナリ

○唐人詞
男根ヲキイパアト云 大男根ト云フ キイパア
ダウテキント云
○玉門ヲピイト云
○盗人ノフヲ タウトイト云

翌九日晴 長崎ニテ毎日四ツ角エ立其日ノ
芝居 鷹ニ言ノチタイシ 高麗ノニテ言フ
子昂ニ馬ノヨウナモノ 君軍 其書其外備ル
色ニ来れ
十日晴 居時過ヨリ 基盛トノト 福濟寺
行ク 寺門四處不浅 額アリ 皆義人
ノ書ナリ 中門ヨリ南望 長崎 湊不浅
見エ 甚佳景ナリ 両岸青山相対出れ
風景甚奇 夫ヨリ 聖福寺行 此モ義人
ノ額多シ 皆唐寺ナリ 夫ヨリ 諸所
宗社 年甚廣シ 聖福寺堂ニテ 宗ノカハリシ 唐杖ニ不平堂ノ前アリ
清川エ 額三枚 頼ム 皆 焼切ナリ 頼
兒玉郡田ノ額ナ 切レ 近ク至ニ故 近引

唐下駄之図

唐烟竹入

翌十一時林氏帰平大坂ニ行クトテ暇乞
スルニ
林氏ハ崎陽ノ人ナリ

戊申冬送
林氏之浪華吾在崎陽客舎

一別頃人積水賒他郷和客未
帰家烟霞意是臨東路雅趣
高遊至海涯

焦帆打ヶ海路清ク思ふ雅波濶
風かりく達スル早咲の梅 鯤

○南湖先生ヨリ書ヲ以テ浪華
ヨリ来ルニ可おもむく事の利ヲ以テ
業乃堂先生ニしかるべし

唐人ノ
一二三四五六七八九十
利口メ上上三文一

唐人テウツヲ朝ツカウ時ニカイヲ初メニテ
ニクカキニテカキメンホンノ中ニハキコニ其中ノ
ヒキ松ヲまうケカニアテあハシワトニテ置
彩ヲ画ニ依テ先イヤクノ也

唐ニテ墨像トテ筆遣中ニ猿ノ小サキヲ
置ノ上ハ墨ヲスル音ヲキニテ筆遣ヨリ先テ
モノカキニテウ時墨ヲナメテ位ウヲ墨ノ
ニキトニ居ノヨヲ唐國ニテ名現ヲ持人ハ必
是ヲやニイ置ヨヲ周子祿是ヲナス依モヨ
イニハモトメニクシ
唐人肥前ニ潭流ノ時逃北ニテ魚類ナリニテ
常ヲ庭ニテクハヤ居ヲ時下唐人膝ヲ
清川荷ニテ佐賀役人ニ直ニナス
日ニ変ハイクシ、モノトヤトイノロ
クハサニフサホウ

毎日至膚ニテクハセテヲノカラ至膚カ
ノニトエツテツタ

○鳥亀トヲフハ日本ノ名ハヤノ一

○過路(ヘイキャウ)青魚 魚ウリノ一

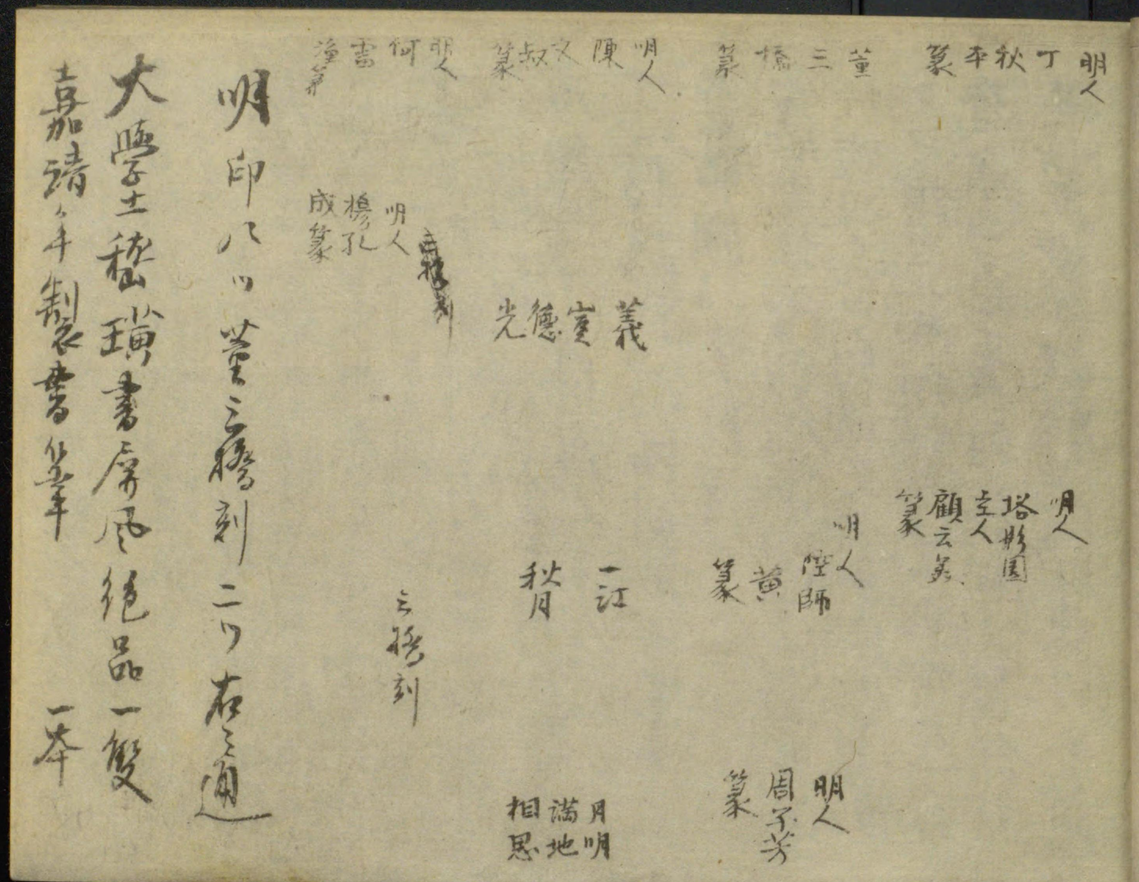
○劉ノ字畧字刻 是ニハヲシアリ

秋谷自身ニテ竹ョテイヲカキハケ 御前ニ上ケクレヨウ
画帳ニイタシ差上ケ候ヨシ 完ヲ而差ヲ候ヲ書画ノ
唐人モウイタキヨシタツテ願候トテ清川願候故
三枚ハ残ヲ置帖ハ当サレ候ヨウトヲハ去唐人共
基ホメ奉ツリヨシ秋谷ニ右ニ付不候旨ヲ候處
則今日湊機ノ舟ニ持ケ来ハヲ翁ヲヤリヲ候是
五官ヲシヲス其外程赤城費時潮共モ何レモ感心
仕ヲカ〳〵日本ノ風致各ヲトヲ候旨五官ヲヲ候
画筌紙ニ枚ニ費時潮山水程赤城書ノ称ム

○下唐人トモハ便所ニ糸候事紙ノ特条ノ時ハ
アライヤス紙ナニニ糸候時ハ手ヲアライヤ候ヨシ

○唐人モノシクイ候事ヲ何ニ有シ時ハタヽミノ上ニ
ニカニタベモノヲ置キハナシスルヨシ清川ヤス

○夏ノ致座ハ窓所ヲ要ニ来ノ葦アリ四本柱ニテ
葦上ヨリニヤ垂ニヨキモノヲカケ中ニ團扇ノ様ケ
是ヲ引ヨシ夜ハナシフトンヲ手ノヨシカヤノ上ニ緑ヤリ
山水ヲカキアルヨシ



○唐人ハ日本人ト遠基ヨハキモナリ暑氣ニモカヤヲイミ障子ヲシメ置ヨシ涼シ所ニ居ル時ハ明ヲ大病イタシ假ヨシ夫故ニ日本ト遠アノシキ[illegible]ヲ假ヨシ必日本人右ノマネスヘカラス

○唐人ハ生涯湯アヒ假アナクタヽカラタヲフキ假ヨシ

○唐人細艸ハ日本ノマツコウノヨウニ細カナモノナリ

○唐國ニ味噌ナシ米ハ甚ハルシ日本ノ附木モナシ

○唐人フントシナシモヽ孔ノヨウナモ斗ナリ

○唐國ニテハ男ノ子斗リヲ子トイヽ女子ヲハ子ノ中ニ入スヨシ

○唐國ノ町ノ中不殘石ヲシキ雨トイヱトモノツニテ歩行スヨシ

翌十五日晴 蒹葭堂主人武久氏書翰出ス

去蒹葭主人、去先日ニ過去ナリ 昔方ヨリ清川宅ニ扣カレ 此シツホコ 振旦

拭和文殿明山水 遠柳 西園 [illegible]

其昌行書 [illegible]

アラ鵜硯 [illegible]

明人 丁秋本 篆

明人 塔影園主人 顧云美 篆

董三橋 篆

明人 陳文叔 篆

明人 何雷 [illegible]

明人 楊孔成 篆

明人 空師 黄 篆

明人 周子芳 篆

義 寔 德光

一江 秋月

月明 満地 相思

明印八ツ 筆ニ擬刻 二ツ 右ニ通

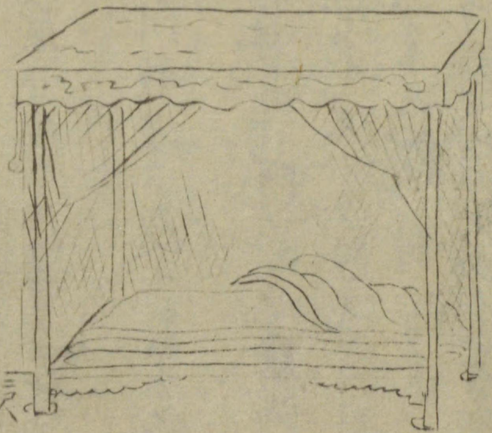
大學士 嵇璜書房 [illegible] 絶品 一隻

嘉靖年製 [illegible] 筆 一本

毛利和鼎字貞臣関谷彦太初知人ニナル長
ケンキノ人ナリ
十六日晴清川氏ニ書画ニ依テ有ル状
其ス 英張秋谷画四枚迯印ス夜ス
野田安郎ニ知ル人ニ年ル大明月ヲ
ニ見ナリ 業往メツキニ役人ナリ
十七日晴後昇ニ 野田安郎ニ
西菓園一覧ニ行 多ニ程数アリ
唐館廻リ帰唐人多居ル
十八日晴清川ヨリ西園画借寫ス
費晴湖ニ書贖ス
襄者接清容於井筒楼飽聞玄論
倏躍殊甚也別後先生参悉否僕惟
不堪相思也而所託之書画何遅遅僕
發期已逼焉雖欲促之隔館禁
不得至案下徒流思耳先生如終業
焉以書画屬清川氏便達僕幸甚
也不盡
奉呈
晴湖先生玉案下
南湖鯤再拜
二白 先生所蔵以山水画筆若得投僕
不堪倏躍
右又告ス清川頼ス夜入荒木為遅
之状也
十九日晴久米ノ下阿蘭陀屋鋪見ル
米ノ玉ハ日服荷見ト云所方ヨリ数人入ル
屋鋪ニ土ノ間ニ玉毛鞋ヲ鋪テ其上ニ玉ヲ
道具ヲカサリ阿蘭陀人両人坐アキノウ
コンハンヤト云所アリ是ハ阿蘭夕花雨ナリ
玉ニ夕ヘモノアリ花細牛部屋ヲ
部屋ヤキ是ハ羊ニ類ス其外鷲家略
旭部ヤ何ニモ甚タイハウナリ カヒタ部屋
是ハ玉大イナリ 丈ヨリ ウメストルノ部ヤ
出鴻海ノ子ヒイト口陣子ヨリ 海山ミヱテ

阿蘭陀画ノ山水ノ如くナリ部ノ内イス
青人ニ書ツヽアリ 史ヨリ [illegible]
部屋ニ行テ至シ噺シスル 寝所基アリ
フトンヲ下ヱ多スキ上ハ二枚イシヲ鋪アリ
敷屋張テアリ 只トニ 烟竹ヲモロウ

阿蘭陀
人ニ寝
間ニ図



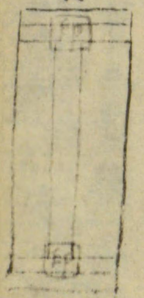
右ニ図如くヒイトロ繪多シフウスコモ多シ
フタナソヲ坐鋪ニ掛アリ
高尾藤の部屋通ニ方船ノ二ツ
史ヨリ吾所通久松堂ニ寄ニ
見ル 白雁二羽アリ 是ハ唐人持段

生ハ年寄藥師寺同役ニ
ナリ 帰故清川ニ至ル同僚ニ
額出来 新系画 笠平一枚清湖ヨリ 送
昨日費晴湖又来 其返輪来
井筒楼暢叙 竟日欣幸何如日前承
委書畫縁各船出帆在即依事紛
繁是以未即應 命遅々之愆伏祈
原宥今清河氏進館接讀
年諭敬領一切所有廬額客即書就
送出外附畫筆六枝祈
哂存是荷専此布達順茲
日安
南湖先生程丘
晴湖費肇陽拝手

表

奉致
南湖先生台展
費晴湖拝手

表



於ゝ亜嚢ヨリ送ル　王蘭谷　赤城しし書ニテ
額十五枚出来ル　御存しの書画ニ赤城
鑑定来ル
喚閣
尊書其鋒完勁絶[illegible]似鍾王帖
中得来但秀媚少遜當以什ヒ
人之法度条以自己之[illegible]天神姿
賓相配節骨適鈎廝可登山
陰之堂入永興之室矣
呉趙程赤城
右之通ニ丁来ル　故　記スナリ　夜入テ
荒木為之進ト　村壽祥来リテ四ツ過ニテ　請ル　江戸表
留雅頃ノ事　勝木利助　太田猶守ノ　九野田宗
之進トナ省ヨミハナシス
翌廿日雨　清川ヒ書画ヲ段ニ付書收メス
并遠桐ノ戸四枚返却ス　夜入蘭馬江漢
来ル

翌廿一日晴　清川書状并ニ書画ノ事
十三銭切手ツ并ニ先日為替ノ處
御尽シ額之段業之来ル　并ニ荻原氏ノ
額モ来ル　右清川持ス　おゝ賛晴湖ノ
画山水ノ幅来ル其品
賛晴湖ニ頼ム
有同藩學生姓十时名賜字子羽者
深慕　先生之書法此扇額
願乞　妙墨不但十时之幸亦僕之
栄也
晴湖先生玉座下　南湖鯢拝
右ハ石栗ヨリ来ス　為ニ勝木利助ヨリ
知人之年ル
翌廿二日晴後雨　野田宗之進初テ知人ニ来ル　唐書
持参ノ段ニ寄セ清川ヒ山水ノ浄書来ス
賛晴湖ヘ来ス
先生多觀董米之墨筆而取法乎此今
又一幅画図亦非近代優孟手可到也
僕常召司馬即命為松雪見模

粘雲村即命為南宮不特此也今
得先生所画画幅而初出米家先趣
君家妙墨下毫工一帆馬群
冀北空先見夏山今欲雨天涯
點淡無図中
右費晴湖送ル為ニ付過某師ヲ又
新画巻一軸借ル甚ヲ見ルヲナリ書ルヲ
夜入清川氏晴色ニ拓カレ寶ヲ新ニ
夜四ツ頃帰ル
翌廿三日晴清川ト同道ニ〻館内行費晴湖
旅亭ニ登ル程赤城ニ逢
芳南湖
余姓程名霞生字赤城號柏塘唐山
江蘇人也在此貿易已歴十六年
鯤先生所學書法何人之風致否
赤城
字法以王為宗而參以趙

右赤城之樓中ニ而筆語ナリ夫ヨリ
晴湖館至リ鹿図ニ逢是ハ近年官人ニナル人
學士也
南姓春木名鯤字子魚号南湖別号石亭
日本勢州長嶋藩侍臣江戸人也
平生素唯画ニ耽未及習文辭故筆語類
屬杜選勿咎所頼
文虎
姓黄名文虎字定甫別号鹿図唐山
南僕江南省蘇州府吳縣人也
常好丹青ニ道然各師承故也
晴湖先生先容
文
昨見尊畫純乎米家筆法
鯤
杜画幅中願也妙墨
文
有詩筆勢妙凌空烟雲補化工雨人心契處
即在畫図中
鯤
詩筆扁ニ絶妙可賞ニ
文
草ニ應命貽笑ニ至
昆
僕本月廿五日已帰于勢州長嶋也
文
纔親色笑君欲話別真恨相見之晚也

昆 倚跡三千里不能共會可憾〻

文 来儀 尊駕于来年何再到長崎

昆 官禁不能共會徒懷石少

門 僕倚跡山水有妙意

文 若情常思故園切冬冬

文 避子懷鄉州豈有異情耶

昆 乞賜 奇事語深願〻

文 碌〻庸人腹中亦無奇事

昆 貴國山水佳地何處

文 錢塘西湖最為佳勝

昆 而觀西湖全圖玄勝景也其餘佳景

又何地

文 蘇州靈岩亦為勝〻地

昆 先生来春倚御州〻時願賜西湖水中

奇石

文 西湖佳處在山水間若取一拳〻石亦無

足觀也

昆 忽異國珍寶何論好拙辛

文 既蒙見垂目當效命

昆 幸甚〻〻

西湖〻全圖画以名中

昆 貴國西湖全景必執卒

文 約畧如此

昆 別〻張韞書〻逢是〻知人倍多〻〻

相逢樓上崎陽頭不計文詩陪宴遊

只愛丹青情未盡布帆明日隔雨州

清朝名士

南湖観

翌日五日晴 余明日發期なれ宿[illegible]
暇を[illegible]

詩 偶遊瓊浦上不計俱把盃樓外
笑離別明朝客意哀

奇 別行く稽跡も遠紀海山我
又い活しの尋きのこん

驚逢しく多我別淋しかれ五角

右我送りきり唐人三四十人稽宿ノ
窓下ニ通ル中ニ費晴衢赤城王蘭谷居れ
此三人余元テ何カ笑ウ此日ハ福濟寺船宿
ナリ

姓 村上名助字子順俗元祥

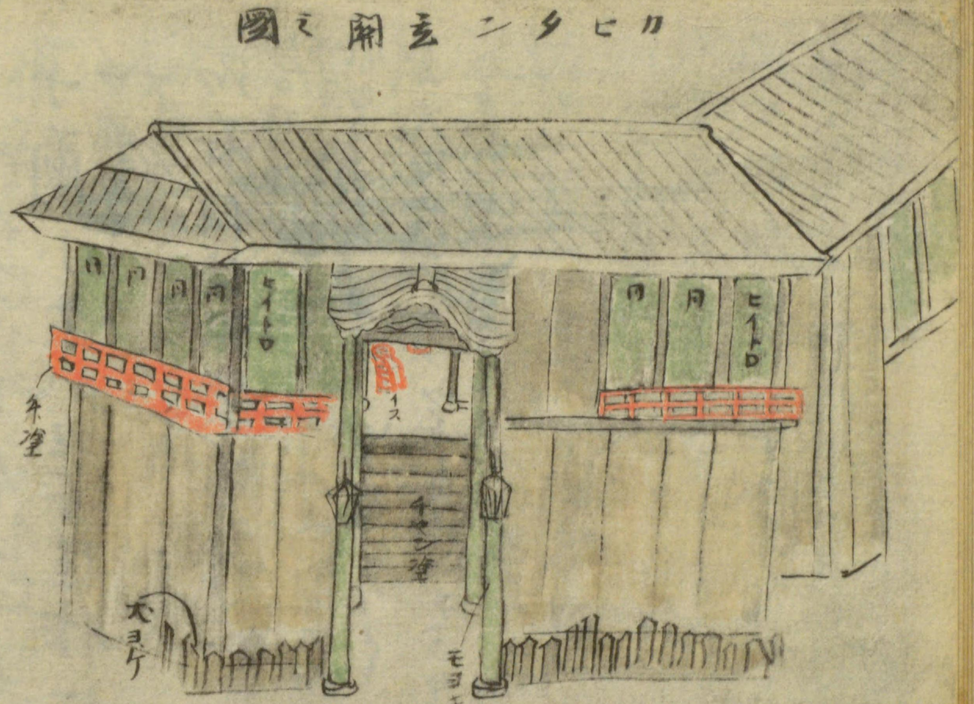
右人升鐫ヲ以持ハ也 所ハ今[illegible]
本古川丁上ル角

雲仙コタケノ根笹ノ男(シ)サヽノ其る
メタチニヒヱ升ナルイ云フチヤウ五月〳〵
ノホリ升ナル云フタアパホ升ハサテ置(ヲ)ク
七月七日ノ七夕(タナハタ)サシエイナルト云フタウ
酒屋ノ〳〵五尺〳〵ノハタチニナル云フタウ
酒屋ノ〳〵残ツ〳〵升ニナル云タウヒホ(エ)ト
云フタアヤ[illegible]

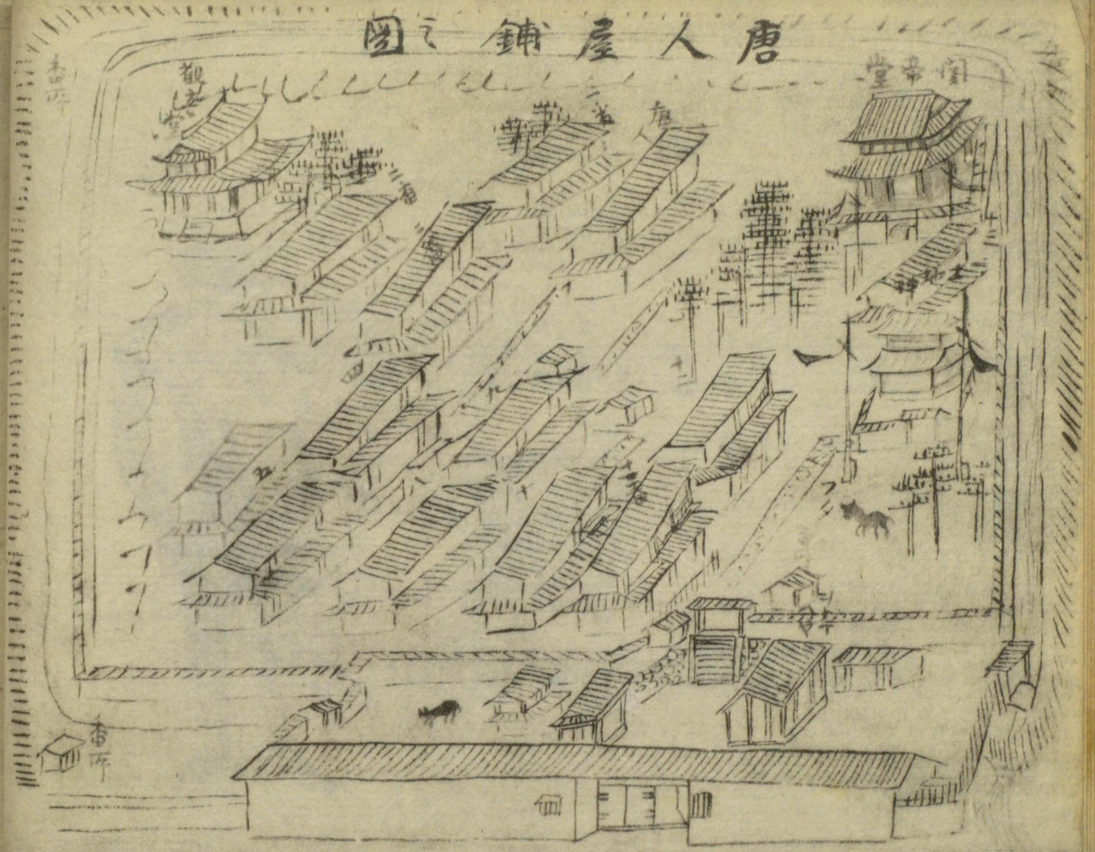
寡君素乎師承但寘月窓竹影
耳又隨曦庵之墨竹偶取法於
此其餘多自得耳願乞
列位之尊評
右之秋谷ニ逢ヤス殊ニ感心
非近代優孟千可到ナリトヤ云
張秋谷甚驚ヤ也
寡君画竹彷彿自常愁不
脱土習不知　尊意如何
秋谷ヤスナカノヽ日本ノ風致ナクトヤス
又古風トヤス
僕平素唯畫之耽未及習文辭
故筆語類屬杜撰乞勿咎所能
聞先生歸郷近殘懷不少

上大人丘乙巳化三千七十
子爾小生八九子佳作仁可
知禮
右在祝枝山猥談引水東日記
唐国テ當時子供ニ書ヲ習ル初ニハ皆
此字ヲ書テ日本ノいろはノ如くニスル
玉大字ニテ上ノ字モ字ヲ書ヨリ順ニ
一字ツヽ習ハセるヿノヨシ毛引ノ内ニ習ル
ヨシ

ロヒタン玄関之圖

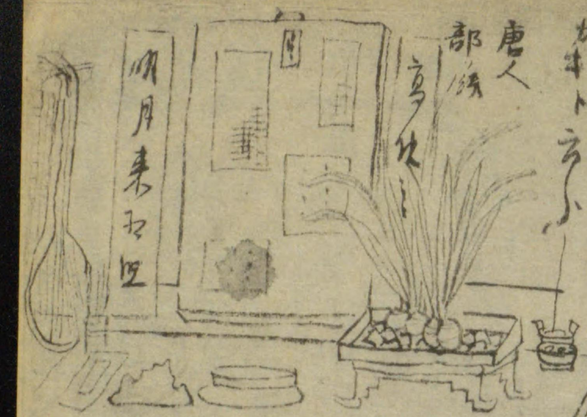


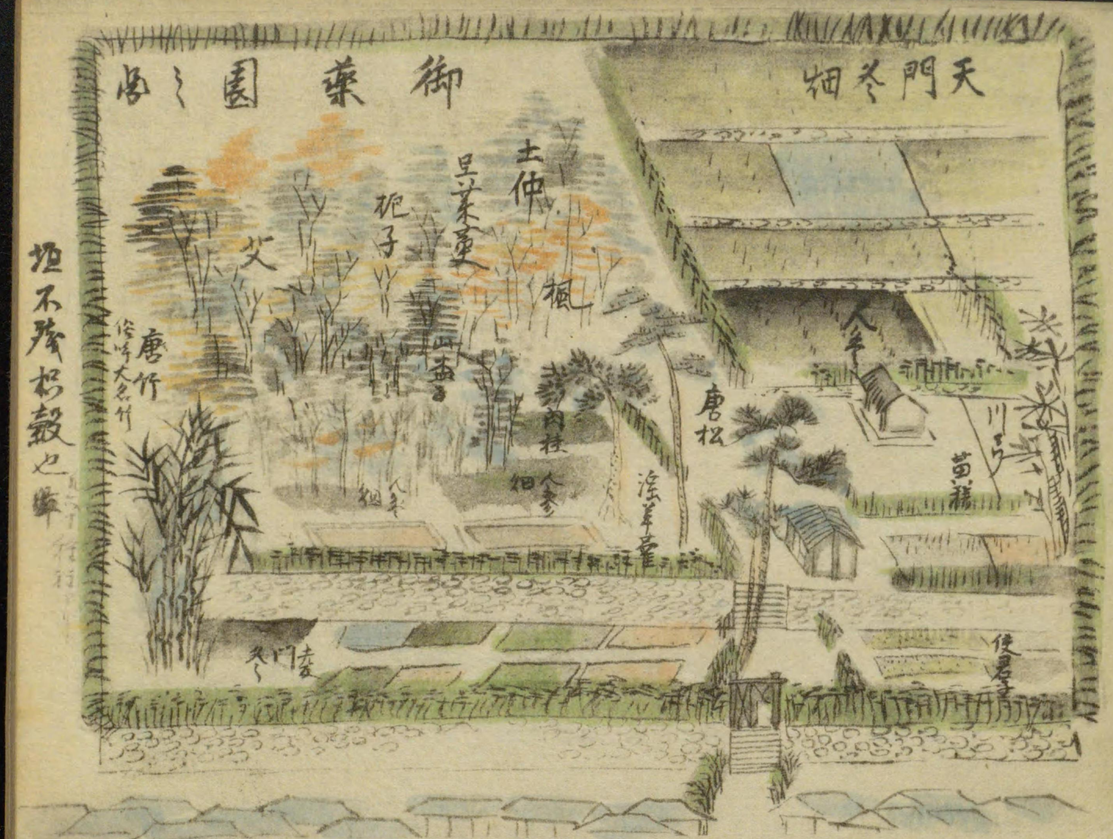
唐人屋鋪之図



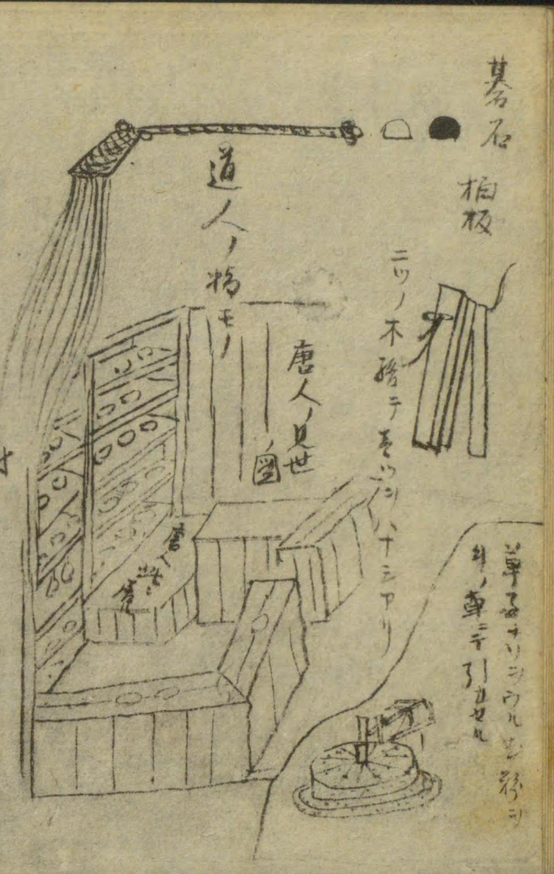
唐人以前者町宿仕徘徊致之候之處
元禄元戊辰年長崎御奉行山岡十象
宮城至厳公御在番之節小嶋村十
善寺ト云所山谷合百間余方所ヲ
園ヲ構唐人居屋鋪ト定天明八年之百
一年ニ成ルヨシ

○唐人屋鋪ノ外ニ竹ノカキアリ是ヲ蘆廊ト
カキト云ル





垣不殘松穀也



唐人部ノ門ニ不成立對聯ノ額門ノ行當スタレ式カキアリ其眼ヲ両方ヨリ通クナルヨウニシテアリ門ツクリハ色々風流ノ傍アリ人々ノモノ好キアリ館内ノ社中ニホグシ燒モノアリ燒爐ノヨウナ物ナリ四時ノ朝望ノ日及古ヲ燒ヨシ其火ヲいてツニスル者ナルヨシ

菓子屋カニ板

南京茶何ー

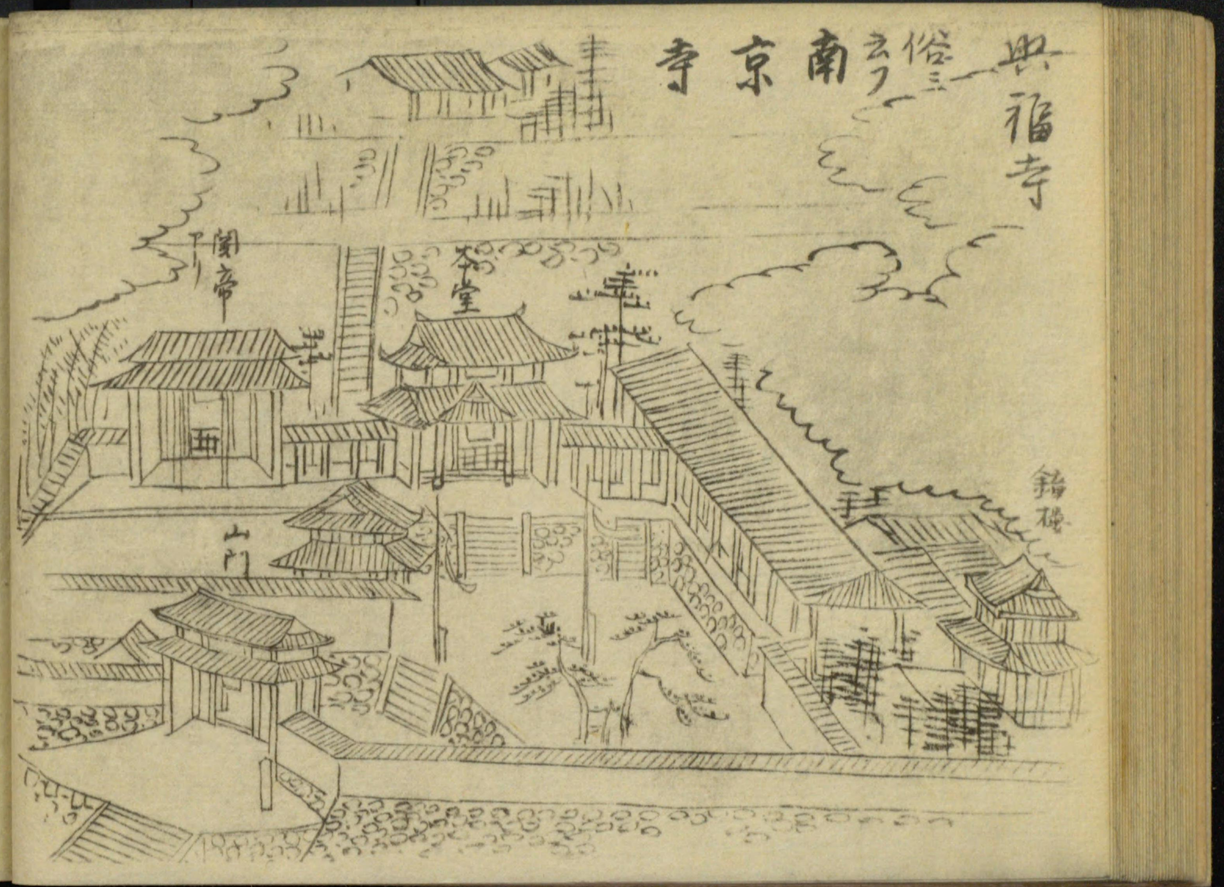
龍井両前

福州上品

武夷ノ茶

補城烟艸 絶品

奇品ハ烟艸 絶品ナリ



雲龍

東明山

彭城楓山居士劉一元書

山門之額

初登寶地

門ノ裏
美人書

大雄寶殿

僧隨之
之書
本堂之
前之額

濟世法王

美人
之書
本堂
ノ中之
額

海天同福主

美人

長崎記

九州肥前國彼杵郡長崎地
三面高山一方臨滄海而海面
壹里計連兩岸左右固公所東
有烽火嶽嵬々西扣[illegible]浦渺々
南得唐館文趣北承行山野凡而
四望社詞寺閣市陌閭閻山容水意
實如遊唐國江南江小千泉石妙甃
石爲梁清泉設春堆而地崇岡峻嶺
蝘蜓如伏烟雲竹樹月々夜花々晨
雪々夕游人紛錯如織常有高舶
異船拭湊頭往來如鳴雷中秋爲尤
勝也重阻嶮絶上縮下縵宛若孤
瓢布置而茅里山水爲之[illegible]
焉備而文雅地也

[illegible]

○長崎ノ佛ハ雁ノ[illegible]モヽカリ[illegible]
[illegible]モセツ

○[illegible]妻閉室トモニ前モヤリ[illegible]老若トモ
ナリ

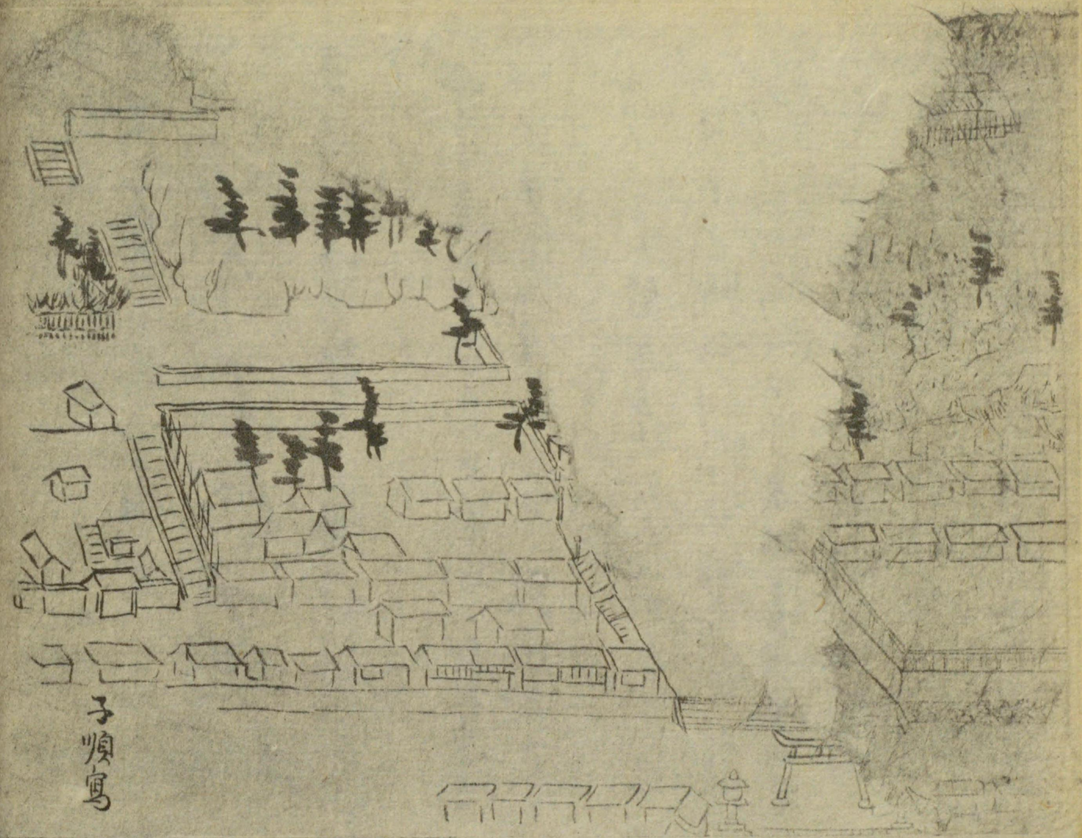
○呼人老若トモニ[illegible]ノ輪ハメル[illegible]沃山ノ[illegible]
ハテナリ

○唐人ノ子ハ皆男斗ニ来ルヨシ

○阿蘭陀ハ皆女斗ニ来ルヨシ

○光ノ丁ヲハホウト云ふ[illegible]此言葉ハ田舎ニ[illegible]
云ふ

○[illegible]トハ娘ノ丁



額ノ類俗ナルヿ只社中廣ニシテ古風アリ其外千本樓トテ樹甚多然モ冬月ナレハ木葉落テ間ナリ

聖福寺

辛巳年寄贈
聖福寶刹祈安道場

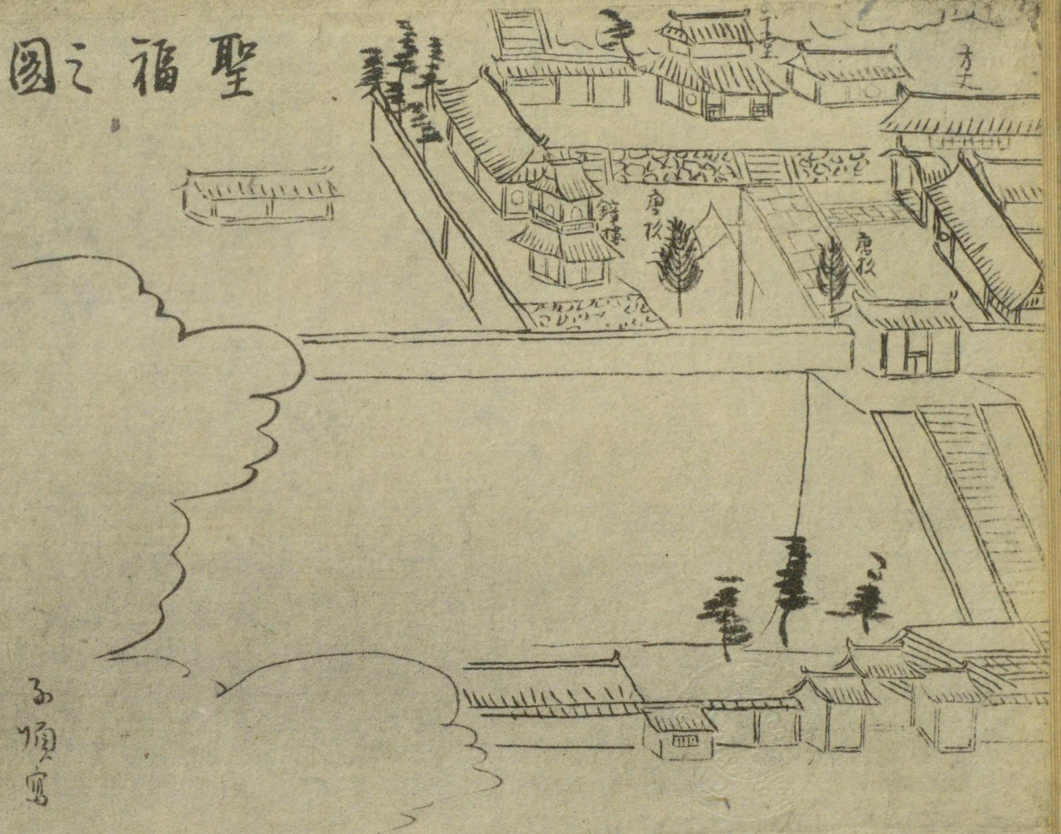
優曇

大清國賜状元及第
戴有祺敬書

本堂之額

右之ハ額其ハ隱元禪師筆ニ非ノ筆額多シ美人ノ筆語モ多クアリ然モ福濟寺ヨリ寺中セマシ本堂ノカハラ紫色ノ藥カナガハラナリ堂ノ前ニ唐杉二本アリ

聖福之圖



子順寫

明唐丁酉中秋吉旦

通身千眼

鰲江洪興佐

福濟寺文閣帝堂

寺入松林無塵事塔高

雲霧帶秋陰寒風霜

露嶺氣〻鄉水梁上色

蒼〻洪堂上夢香開萬像

清楚經節香閑閑房

一遊佛地人間外

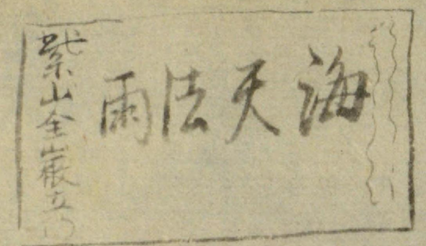
晚鐘數時地冷涼

布袋堂

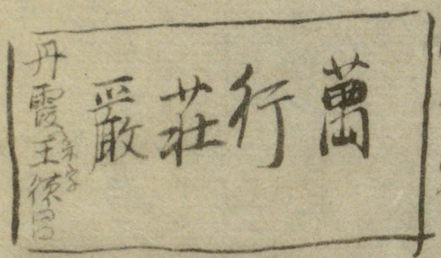
海天法雨

紫山金巖立

同時ノ額



萬行莊嚴



丹霞王徐昌

福濟寺之圖

之ヨリ南望長崎之淺盡ヲ見ル基伴地ナリ

方丈ノ庭ノ西湖石アリ

慶安二年明僧建

觀音堂

方丈

六角堂

鐘樓

布袋堂

是ヨリ落海根下ヘミル

福濟禪寺

初門ノ額

西方ニ聯アリ

石門義人ノ筆

天運戊寅孟夏吉日

左右聯玄岱

中門表ノ額

信士君葉謹立

梵臺聳碧岑

樓外足多心

茅里海天潤

千尋松樹陰

青山雨岸合

寺裏竹林深

猶憶[illegible]意

鐘聲落[illegible]音

[illegible]

南海傳宗

福建泉州府

山海大觀

明暦丁酉三秋

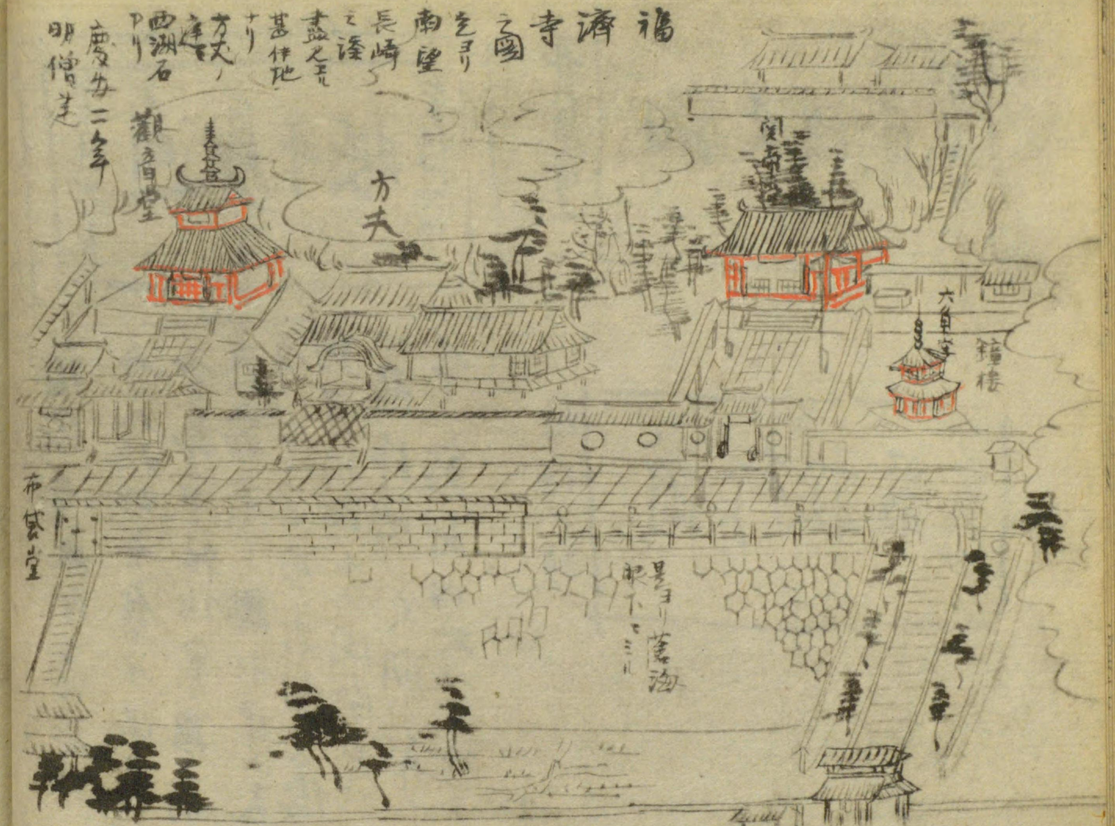
温陵歩雲閣蔡簡書

七分ノ額アリ

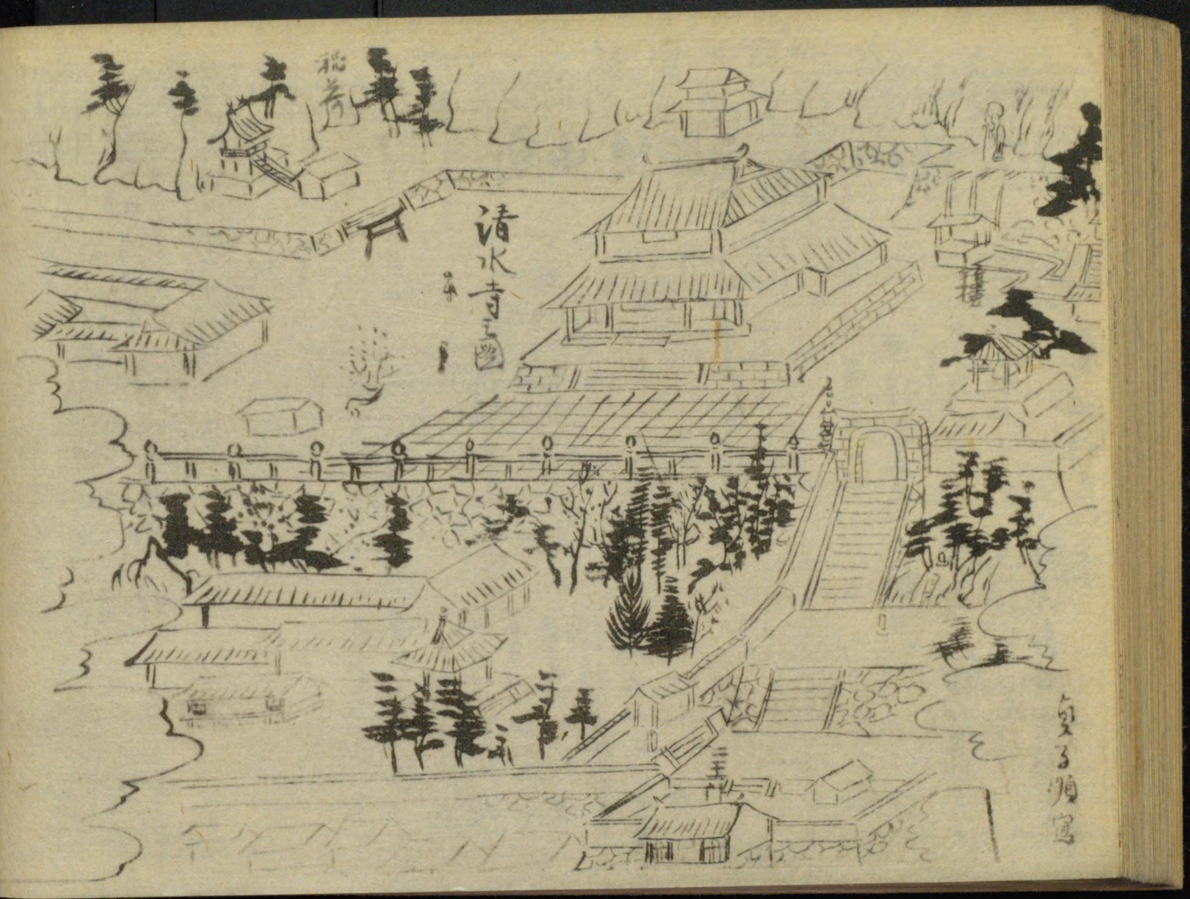
高ノ三千尺ヲ

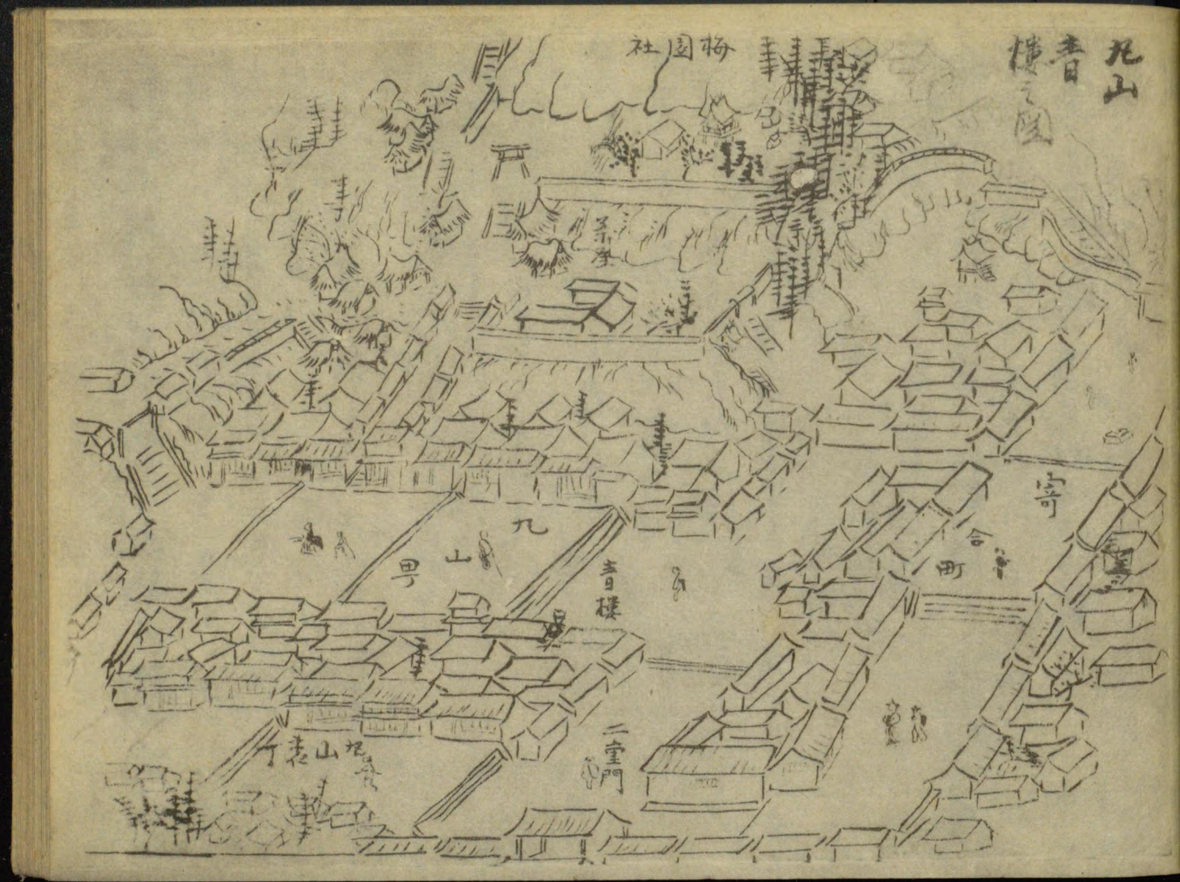
木庵即非玄岱之書

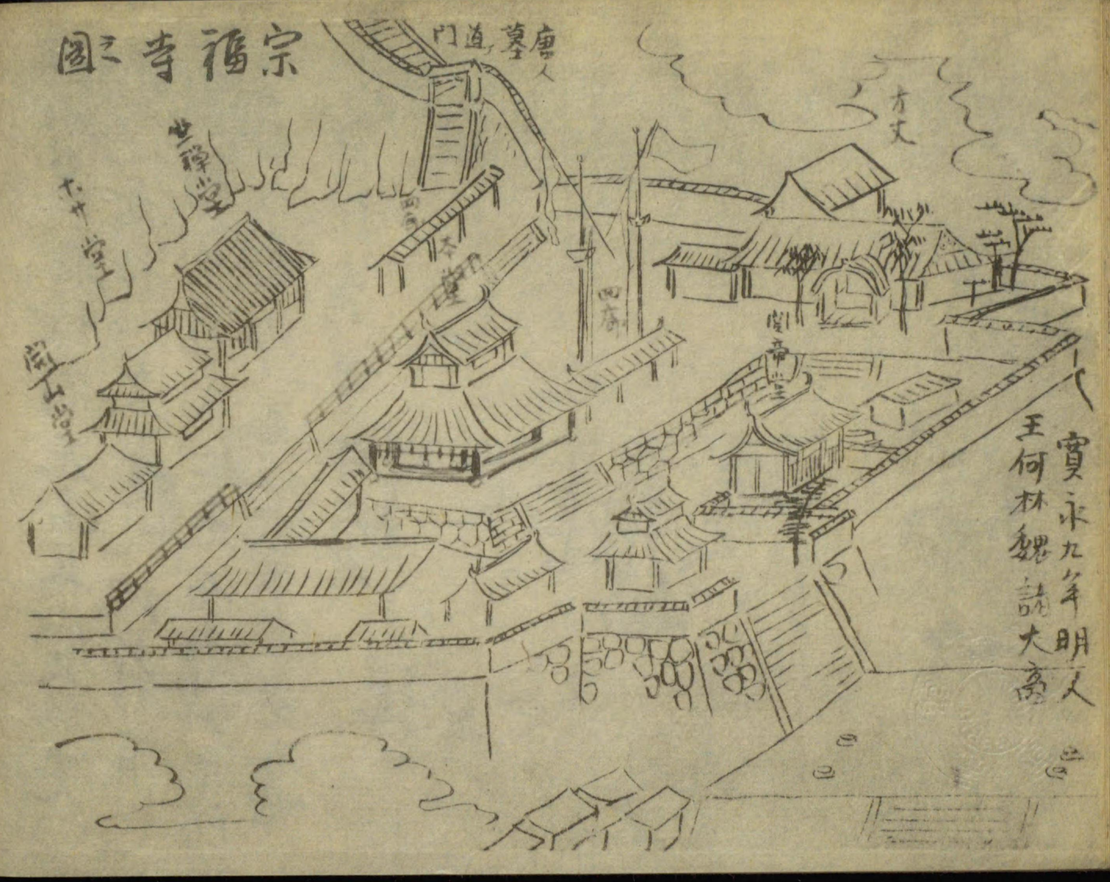
鰲江林千峡書



清水寺在祇園左名長山又曰光
乘院元和九年建此地舊有
藥師石夜來出光而尋到光所
但一石在焉即藥石因名光石順
以靈地爲臺皆石也







九山青樓之圖

梅園社

九山界

青樓

寄合町

二堂門

九山表丁

宗福寺之圖

唐人墓道門

方丈

世禪堂

六十堂

四齋

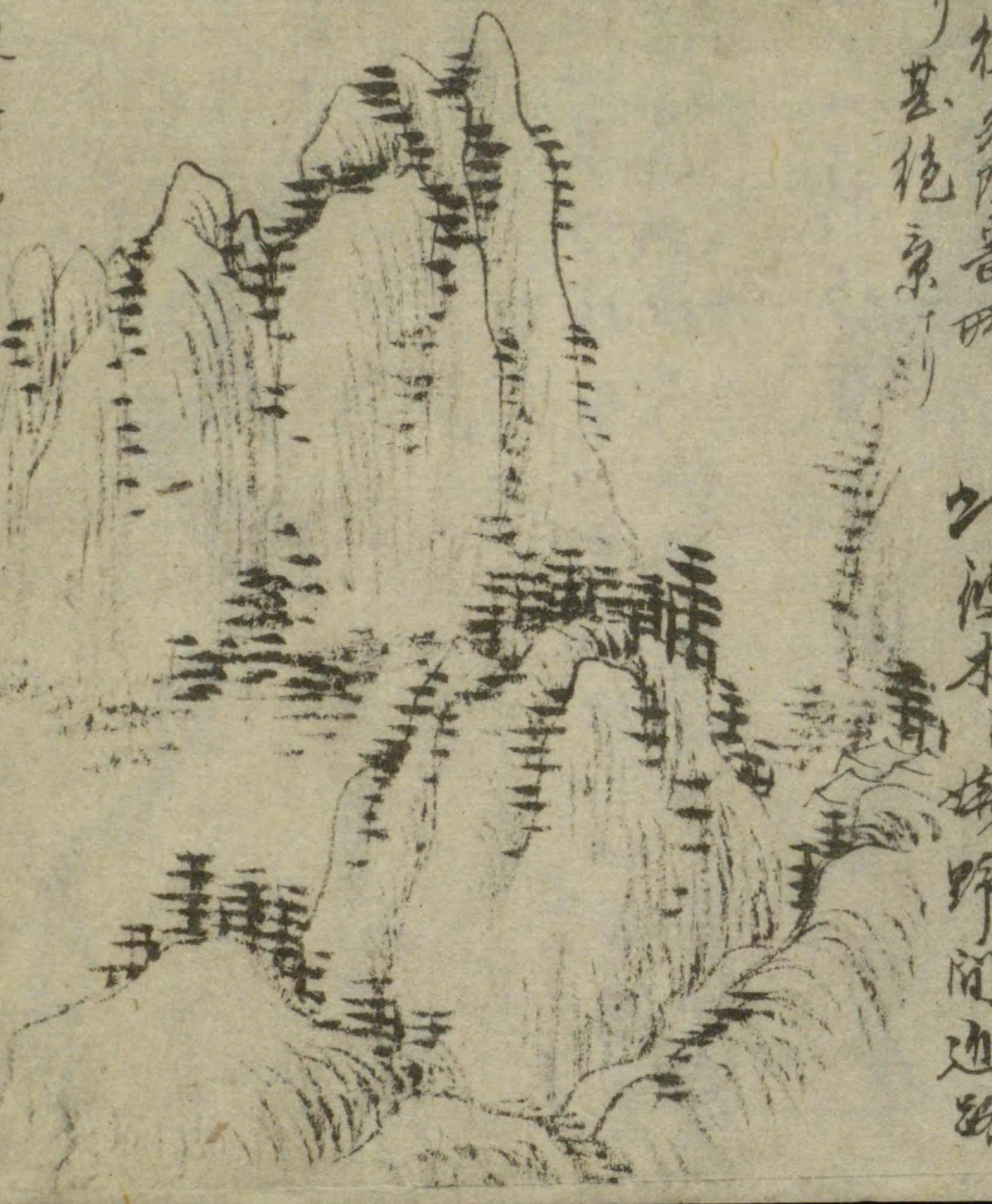
開山堂

實永九年明人王何林魏諸大商

漢和両州數里ト海山遠隔共替ヌ道ノ
一節ハルウカ心ハ咲サトウ名ニカエヨト敵ノ程モ
何カ難ノ事雲間ヨリモレテ生ルルウカ誠ハ
九山月ノ夜サリノハシフウノ人目逢夜
十五夜ハウ見ヌ夜ハボハウ積ルミニカンサンノ
浮名タツ
あゝしくもうしとそよめり
○いふ時ハ
○いなだれハいやといへり
○おかりまん かさねのて
○あいぶとれハ大キい小サルノて
○よあきますれといへり 常ニ云ふ
○あうこよのあかれこよのいへり
○まだれハ伊勢でおしれといへり
○是しだれましだれト常ニ云ふ
○あり家行ハ行ノて
がいぶしさんでも帰りまの陽りくも保り、病ハ
あかりかセノコノサイノパンノコサ

是ヨリ長崎滞留中ノ記

十月廿六日晴 長陽發足 清川晴峠ト板部氏西浦余リ送ル 去京長岡日見陳ヨリ帰ル 日見陳越大雨矢櫃驛ニテ清川小林西浦板部其蔵ニ賄宅シテ別ル 大雨故七ツ時過
諫早（イサハヤ）驛泊 古賀野ヲ清宿
翌廿七日風雨 諫早ヨリ立 昼時晴ル 大村（大村服部ホウハウナシ七シホウノ山ハ二三里松原ヨリ）松原 此彼木ト嬉野間道路間社来陵番所アリ
アリ甚絶景ナリ



其夜嬉野ニ泊ル 温泉ニ入ル
翌廿八日雨 嬉野驛ヨリ 塚崎ニテ 山多シ

雪降て山々ノ路甚寒くして此辺(あたり)尤多(おおき)き鳥(とり)ト云(いう)
朝鮮ヨリノ時渡(わたり)ノ鳥(とり)ニ有(あり)ト云(いう)佐賀領(さがりょう)ニ入(いり)ては
鳴(なく)ヲ不聞(きかず)

此辺(あたり)鳥多(とりおお)し佐賀ノ辺(あたり)石炭(せきたん)ノ山(やま)夥(おびただ)敷(しき)黒煙(こくえん)ヲ吐(はき)
泊(とまる)

翌廿九日晴佐賀ニ立(たて)て小(ちい)さき雨降(あめふる)ル神埼(かんざき)
ニて銀札(ぎんさつ)ヲ換(かえ)ル

米弐升當禾秋伍拾成ニ
ノ相渡(あいわたし)ル
来ル月　米舎所

右(みぎ)ノ銀札(ぎんさつ)ニて銭(ぜに)ノ替(かえ)り肥前國佐賀ヨリ通(とおる)
関(せき)スル迄(まで)ハ皆(みな)多(おお)ク米(こめ)ニ換(かえ)ル札(さつ)ニ有(あり)
旅中(りょちゅう)ハ懐中(ふところ)ニ甚便(はなはだべん)ナリ夫(それ)ヨリ肥前(ひぜん)ノ

東木驛(ひがしこだまえき)ニて右(みぎ)ノ州(しゅう)濱田(はまだ)ヨリ津(つ)ノ名(な)ヲ聞(きく)朝鮮(ちょうせん)
人拾四人(にんじゅうよにん)ニ逢(あう)ル是(これ)カラ厄馬(やくば)ニ乗(のり)て通(とおる)ル濱田(はまだ)ハ
松平左京亮(まつだいらさきょうのすけ)殿(どの)ノ領(りょう)ナリ故(ゆえ)ニ左京亮殿(さきょうのすけどの)ノ字(じ)ヲ離(はなれ)ス通(とおる)ル
字(じ)ヲ離(はなれ)ス没人驚西人(ぼつじんはせいじんヲおどろく)

右(みぎ)皇華人(こうかじん)ノ暗(くら)ニケアリ　役長(やくちょう)ニ云異國(いこく)ノ漁者(りょうしゃ)
ナリ口(くち)ヲ人書(ひとかき)ノカキシヨヲ言葉(ことば)ハ日本(にほん)ノ言葉(ことば)
多(おお)シツカウ此(この)ホノ辺(あたり)ナリト云(いう)カラカイ島(しま)上(うえ)ヨリ日本(にほん)
旅宿(りょしゅく)ニ入(いる)ル大概(たいがい)セイ高(たか)シカタチ日本人(にほんじん)ノ如(ごと)ク
遠(とおく)イシハナリ中(なか)ニ言語遠面象(げんごえんめんぞう)日本(にほん)ノ人(ひと)ナリ
夫(それ)ヨリ田代(たしろ)ノ原田(はらだ)ノ間(あいだ)ニ築(きず)ク築堤(ついじ)肥前(ひぜん)ノ境(さかい)ナリ
此(この)所(ところ)ニ小関(こせき)アリ三國関(みくにせき)ト云(いう)此夜(このよる)原田(はらだ)佐賀(さが)ノ
中(なか)ニ泊(とまる)

翌(あく)晦日(つごもり)朝雨(あさあめ)原田(はらだ)ノ立(たち)晴(はれ)ル此所(このところ)秋月(あきづき)ノ道(みち)ヨリ
冷水崎(ひやみさき)ニ往(いく)ル昨夜(さくや)仮宿(かりやど)ス泊(とまる)ル此宿(このやど)ナリテ
スエフロノ湯(ゆ)石炭(せきたん)ニテ沸(わかす)ス

飯塚ノ遠ノ田ニ霍多シ

白霍

外白此ノ赫名主

羽ノ裏黒シ是ハ飛時斗
見ル常ハ白シ

築前飯塚遠霍一群数千変ニ居ル其
国主ヨリ製禁ニテ猟ナラス其ガ雁鴨多シ
翌霜月朔日晴飯塚ヲ立ク築ガ中
瓜島多其夜者豊前小倉御城下渋屋ニ
泊此日終日晴天ニテ長春ノ如ク渋州ノ

沙門肥後探海ト同宿夜来高読
翌二日晴小倉御城下ヲ朝五時ガ発足
舟場ヨリ楊帆

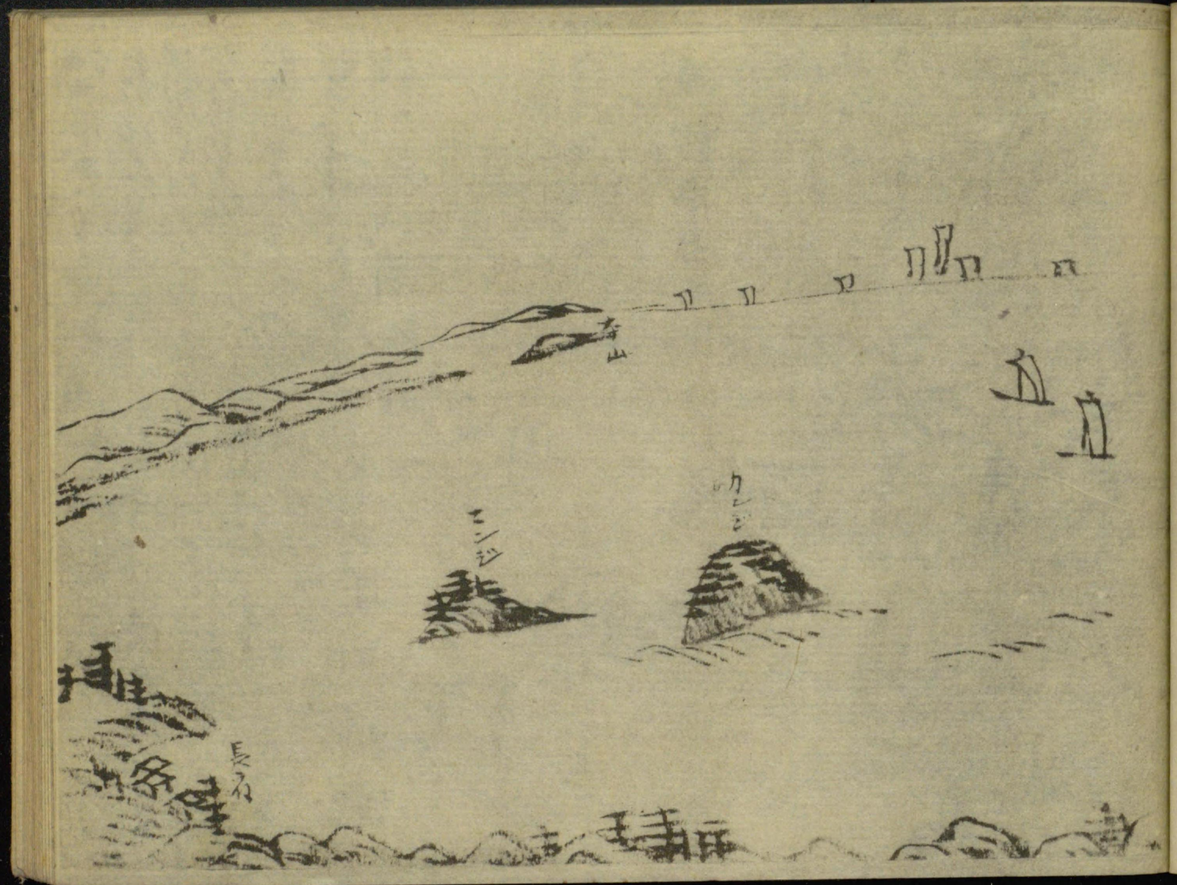
相逢綺席 [illegible]時深笑過望頭驚意
寒夜月斜清晩迫此遊何歳入東林
余郢一章ヲ渋州沙門送リ別レナス沙門
亦一歌アリ
予崎陽ヲ立ク破笠ニ杖ヲ持チ豊ガ州
ヲ分ル此津ニ滞留セシ小武州ノ南湖先
生肥後ノ沙門探海ヲ屈ス夜ニ至ル
物シ多ニ出船シ給ふと聞名残ガ[illegible]
作リ[illegible]

興ヲ記シ事
武蔵浪客水仙窓
右句ヲ余送リ別ルヲ句シ夫ヨリ船ニ乗リ
船ハ小倉船住吉丸ナリ

同船　浄土宗　稱善寺　容空和尚
同　禅宗　構丹両国境永沢寺
同　肥後探海和尚　正道和尚
同　京本願寺中　木村重助

同
同
同
京三條室丁
本屋和泉門岩藏
同
同所
利兵衛
肥後國高宮村常助
別号唐ノ人
糸合九人同船ナリ
源海灘
六十里
長州下ノ關

風波荒
十日モ廿日
船出ス
曲至ル小倉
下ノ關ニ三里
同日七ツ時過長州下ノ關若岸下關ヘ上リ又和
丈ヨリ稲荷丁夜ミロヲ見ル 遊君 髪ノカタチ

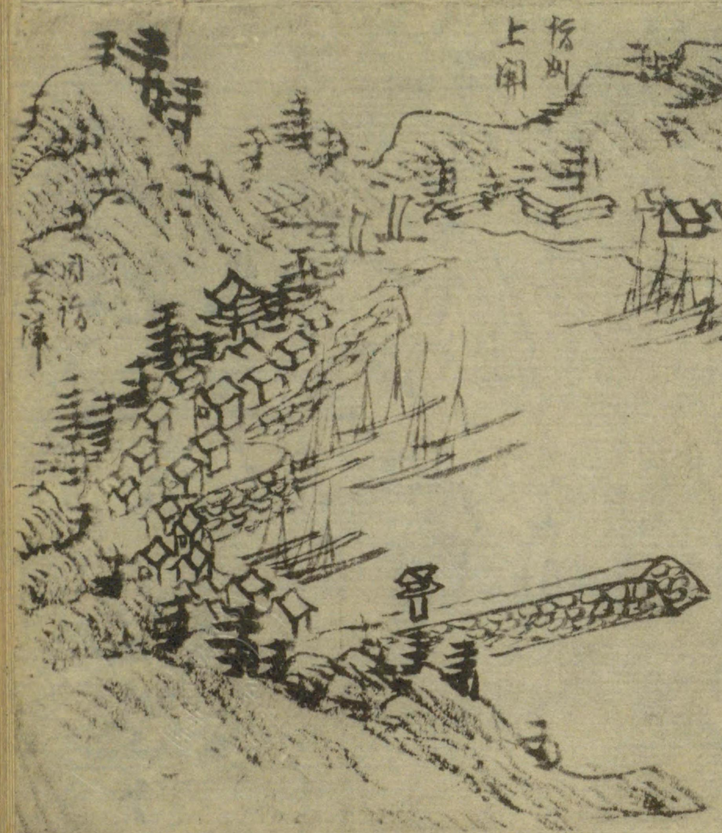


多京大阪ヨリニセル此夜赤間泊舟
翌三日晴下ノ關揚帆メカリ物明神ノ社アリ

訪州灘
三拾五里

此日風惡豐ノ多ノ浦ニ撫風ヲ待ヌヨリ夕ノ浦ニ
上リ此所モ遊君アリ玄田舎ナリ此日海上二里
牢斗船出セシカ又下ノ關ニ帰撫ル暫時大雨
此夜下ノ關エヒスニテ亀山ハ幡ニ条ヒ玄如山ノ舞アリ
翌四日雨ニテ下ノ關ニ泊舟
翌八日晴ゆく西風アリ長州下ノ關ヲ揚帆
朝四ツ時ニ周防灘ニ渡ル

周防本山ノ端ハナ
大荒浪風 艤ヨシ
海上風 京ヨシト
酸雖モ波風ハケシ
ク舟を畧ス



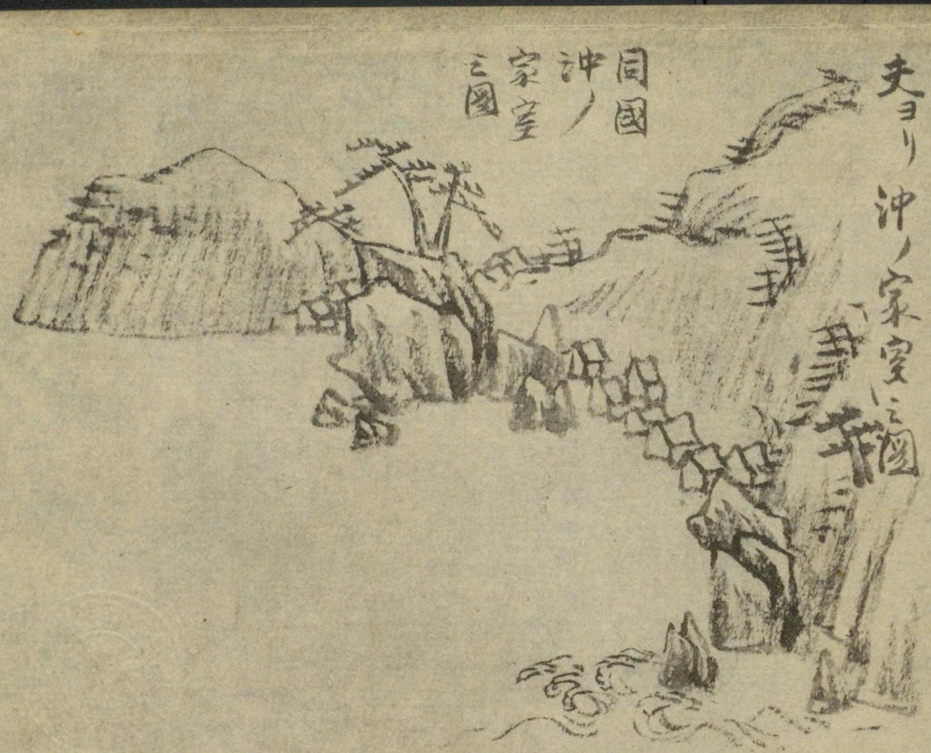
此日七ツ時過訪州上ノ關ニ岸海上下ノ關ヲ
上ノ關ヱ三拾五里

訪州
上關

周防
上關

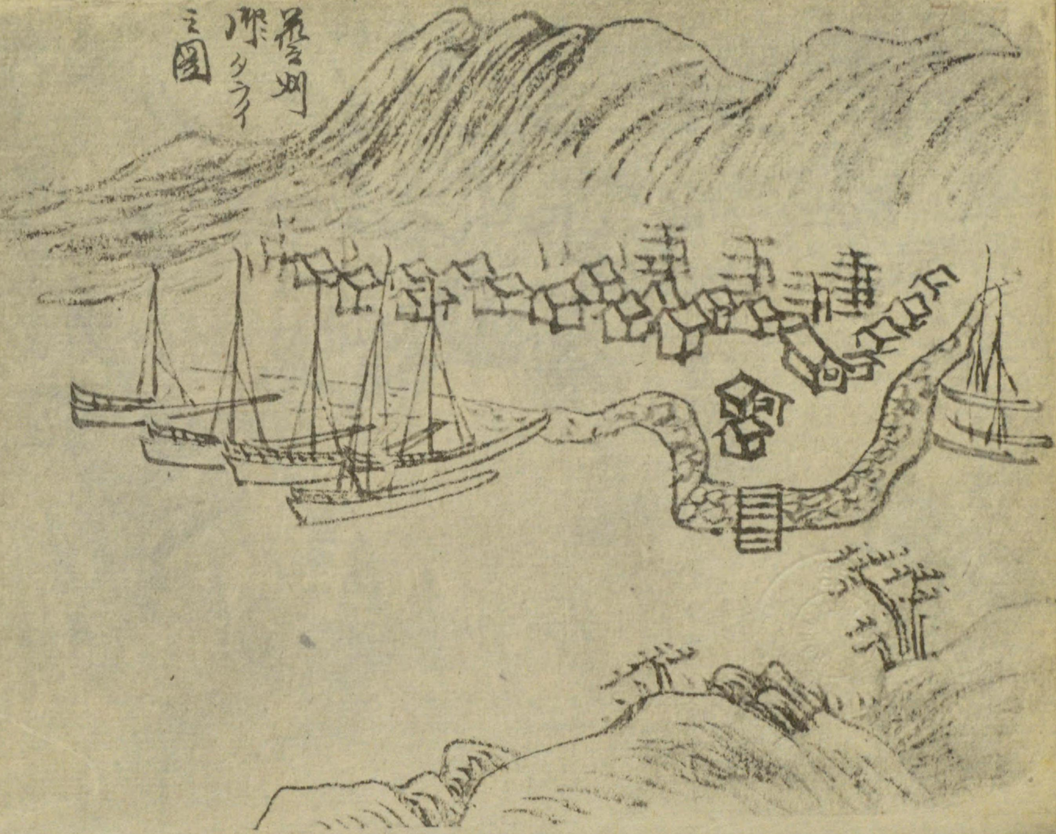
史ヨリセンハ嶋ノ景出此
センハ嶋ニ京

上ノ開
之瀬ニ
センハ嶋
センハコハアウコニ
拭テ荷嶋ト
云
此所詠早三
絶景第一


同國
沖ノ
家室
三國
夫より
沖ノ家室に國

周防
千家室

此後三拾里四五里 翌十一日朝風波恐
翌十二日浪荒在留
翌十三日朝楊帆



其夜蒼州ミタライ泊舟防州上ノ關ヨ

此夜者備後鞆泊 藝州御手洗ヨリ二拾五里此鞆津者中國湊ノ第一勝景ナリ寺社多空世上人ノ開山ノ寺ニ石ニテ刻シ二王アリ左二王門中アルノ石ヲ赤ク塗アル 圓福寺トテ海ニ望シ寺アリ風景甚佳朝鮮人入津時甚賞ヒセシト云

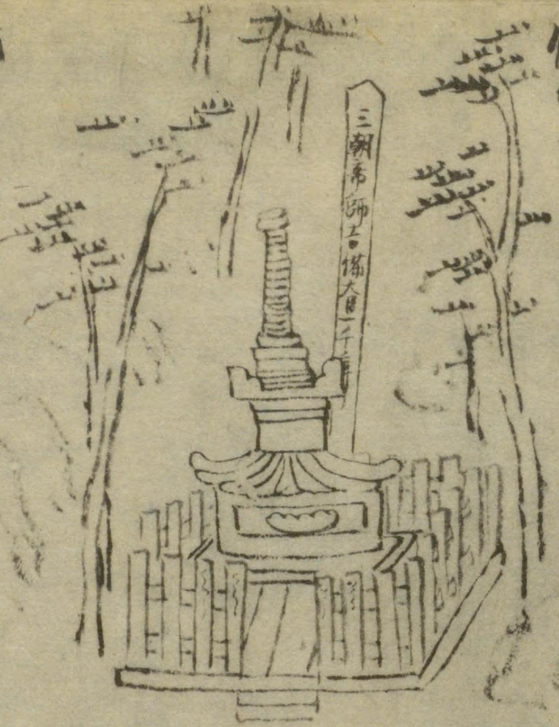
翌十三日天風ニテ盆西風ハケシク出帆見合拭居四ツ半時ニ拭ヲ拭ヒ見合セシニ盆ノ風臨故ニ日数ヲ知ラ故此津ヨリ上陸路ス是ヨリ備後福山路海道三里斗

福山道海道之図

備後福山城閣之圖

備後之福山ハ當安部伊豫守侯ノ侯ニ也
西國第一之西城ナリ是ヨリ神ナ辺エ二里ナリ

福山ヨリ神ナ辺ニ山路此夜ニ神辺ニ出ヲヨリ
備中四日市驛問屋重兵衛方泊



備中吉備大臣廟
松山ノ上ニアリ

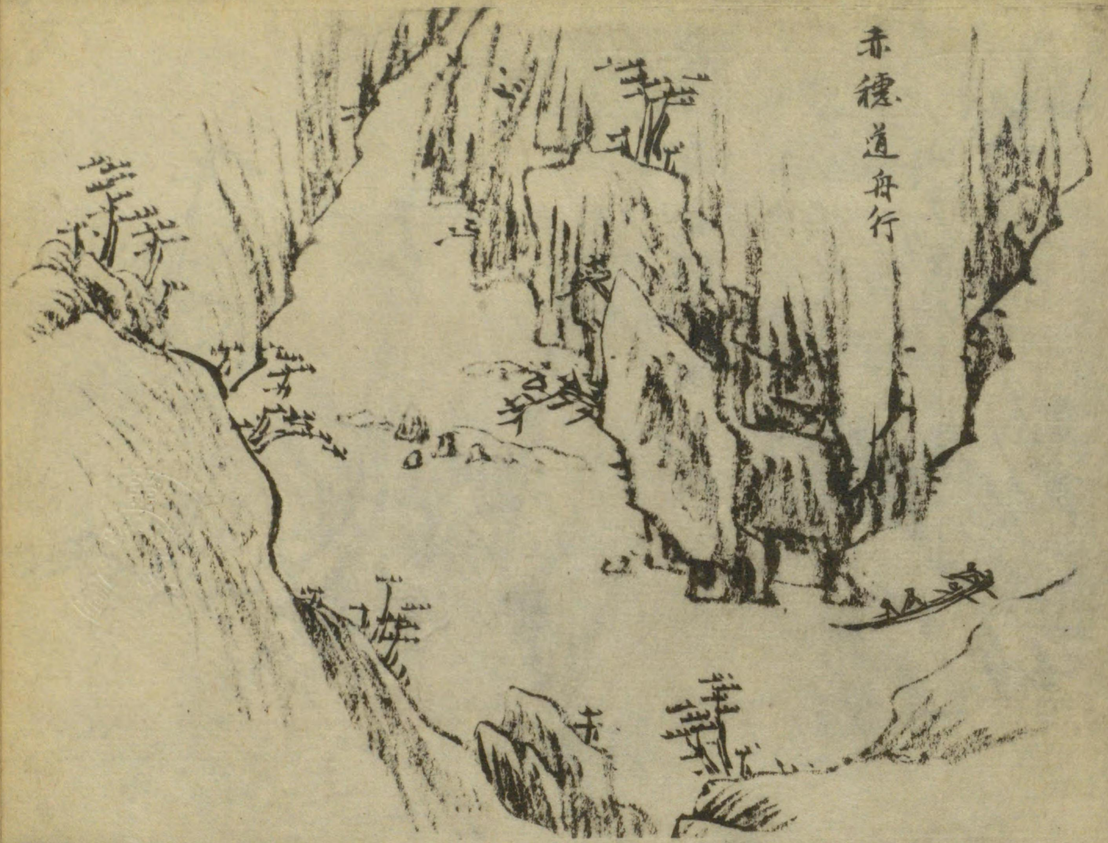
翌十四日晴風備中四日市ヲ出テ朝禮拜吉備
大臣廟暮備前岡山丸上町備中屋安之助方ニ
着シ山川高後終ニ浦上氏ニ過此ニ泊夜来晴ス
翌十五日晴備中屋ニテ金屏風一雙エ米家
山水ヲ寫ス其夜淡河與喜居宅ニ過夜宴
夜雷アリ

翌十六日晴岡山ヲ晦金ス餞別ニイニヘ焼師子
一箱トイヘ焼飯ヲモロフ岡山城裏路通

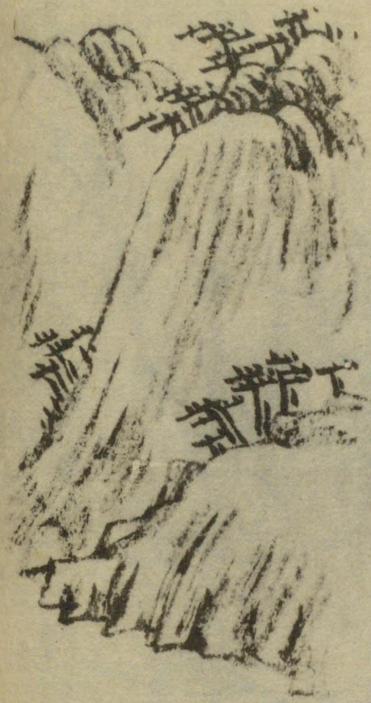
備前
岡山
城図
之図

此日毛利家姫君ニ路ニ逢此夜者備前
三石ニ泊山口清玄清方此所者備前播磨
境ナリ
翌十七日三石ヲ立有年驛ヨリ赤穂舟行
下舟山水急両岸早流梗ム風京佳

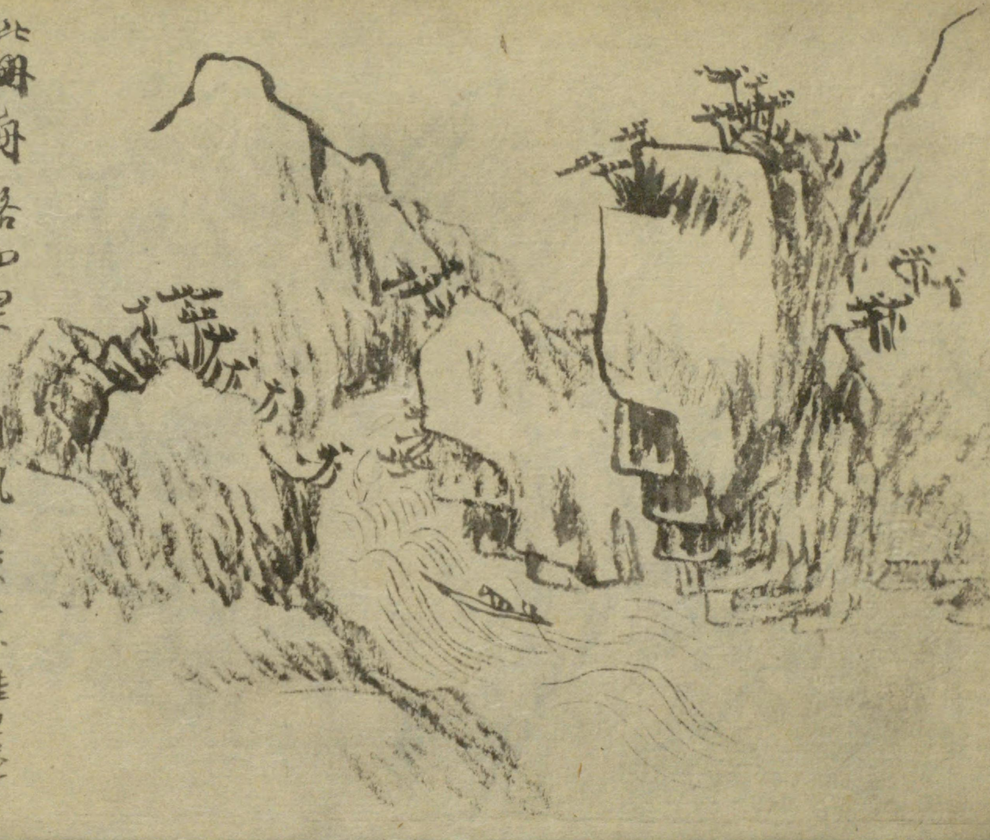
赤穂道舟行



赤穂道舟行之圖 岩門



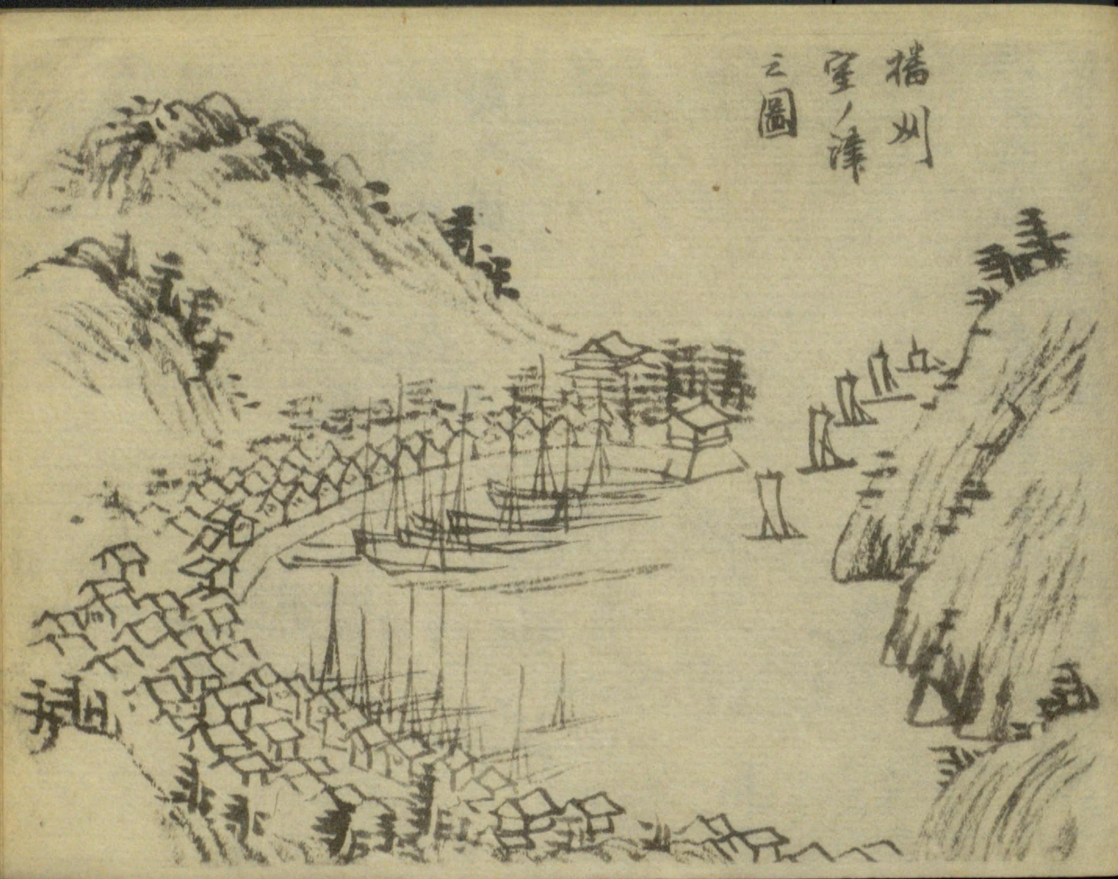
此舟路四里之間風景甚佳景ナリ
四ツ時舟乘り赤穂ヲ降下ニ九ツ時ヲ刻



是岸ヲ城下ニ若赤穂ノ降下ハ甚如ニ義ナリ

行嶋ヨリ
室ノ溪ヘ江進路
山間磴

播州那波
大嶋之図


播州
室ノ津
ニ圖

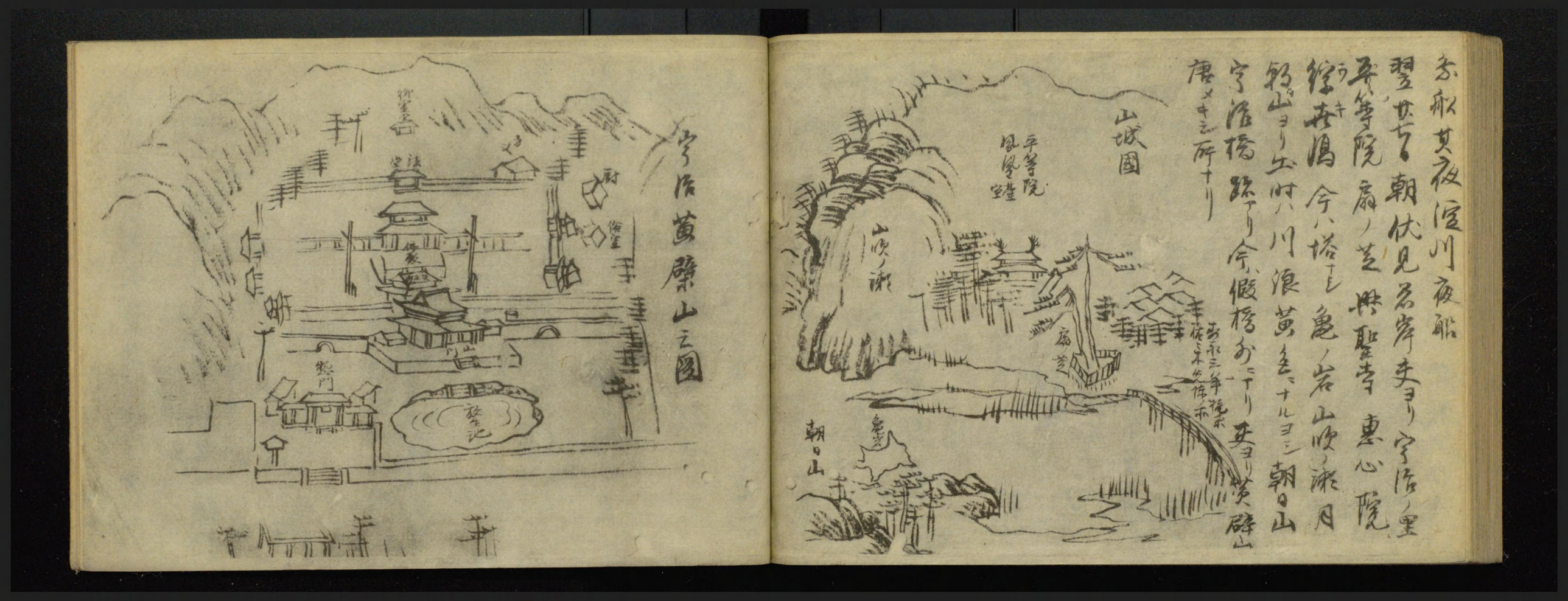
ミヤトシヤ
圖
地ム子ヨリ
播州
大浦ニ至
ニ圖

姫路城
閣之圖

此夜者姫路原屋四ヶ夜清泊ル
翌十九日晴姫路立ヶ〳〵明石須ノ口通

須广之月夜ニテ風景甚佳ナリ
海上月中愁思生霜侵松樹布
帆輕苔来此境傳佳趣満天清玄
行路明
此夜播州名庫驛泊手鴻屋
翌廿日名庫發足長崎ヨリ川舟ニ
乘リ播州大坂ニ着此間西宮恵イ田
森溪川楠ノ塚アリ此夜六ツ時過ニ
浪義蒹葭堂名
翌廿一日橋清齋ノ僧ニテ画會
大坂橘通五丁目大善亭ニテ
大倫寺　土肥源五郎　大井新六
福原五岳　林熊岳　高嵩岳
東洋　演田希菴　藤陽平
三井千坂　藤井鴻原　鍋屋原清
姫路伊原　蒹葭　林眉軒

此夜掃路雨天
廿二日處々賴ノ画ヲ終日語ル
廿三日銅坐田中源坂ヘ行此日荷花
名
廿四日万軒丁油屋冬至會ニテ蒹葭
眉軒日逸ニ行卓子ヨリ
長崎屋市郎兵　河波屋作蔵
澄良輔　大井新六　木下公君
田中達原　篠崎長郎　桃原堂菴
同堯民
支布屋吉ノ郎　薩州勤学館　長崎行人
伊集院平太郎　薩广仁郎
筱名應道字安道號三嶋
廿五日荷物仕旦
廿六日暮七ツ半時大坂ヲ晦立ニテ立玉
蒹葭眉軒清齋送ル四ツ橋大佛屋ヨリ


宇治黄檗山之図
山城國
平等院
鳳凰臺
山吹ノ瀬
扇ノ芝
朝日山
宇治橋

夫ヨリ伏見海道ニ出此夜ハ草津泊ル此日
追分大津迄大雨 草津宿山ニ雪積リ
甚寒シ
羽立廿八日 草津ヲ立此日ニ雨雪ニテ難儀
也洽鹿山中別石大雪此夜ニ関ニ泊ル雪
宿ナリ此前洽鹿山中根多シト言此ニ
山ヲ狩リテ四辻トルト言フ雨ニ前山中ニ金食
ノハレシヨシ也草ノ中ニ路アリ
翌廿九日 朝大雪関宿ヲ立亀山府野辺
雪風驚シ 桑名迄ハ雪降ス此夜六半時
時ニ長鳴所降下云ス

僕 姓費名肇陽字得天別號晴湖
南湖 貴國何處
菅溪人也
晴湖 浙江湖州府住杭州俞鋏生
晴 所画山川數幅自携来多米家
筆法余觀之
南 墨妙可賞可則
晴 不過寫意
南 先生画法多宗米家筆意耶
晴 米家董玄宰黄大癡諸家俱
師之
南 僕素臨三家妙墨然不脱土習
味梅 僕姓朱名衡字芝岡号梅
南 僕常好書画詩文
味 余性亦好詩画然近日出帆歸棹
在途諸事匆々恐不能細領教客
南 再来日請教何如
南 皆遊崎陽亦得交會親承指授

姓姚名祖申號中一　申五番
別號古慶
南
僕所寫山水画中願賜一揮妙墨
中一
要題画幅將來效勞
南湖問硯雲
聞先生書法妙得八分願示書
硯雲
僕無所知書畫一道不過随意
圖抹聊以自娛而已
硯雲則一揮八分
南
先生書法宗曹全碑否
硯
曾觀之餘學文徵明筆
赤城交會之時余所画山水中々
南湖先生所畫尺幅妙得天然之趣又畫晴
湖補以峻山嶺可謂全璧

右　吳超程赤城
筆勢妙凌空烟雲補化工両人心焚處
即在畫圖中
右　辞月山人黃定甫題
南湖先生先畫坡樹屋宇寄示余因
為三補峻嶺以全其勢
時乾隆五十三年小春々浣於崎陽
山館作也　耕雲使者費晴湖
右　崎陽聽樓中漫興之席余先畫坡
樹屋宇晴湖以三山嶺全其画
席上　程赤城　費晴湖　南湖
黃定甫
右三人之画題ヤリ
好方名濟字西園号巨川
浙南寧國府性德懸人
[illegible]

165
153

稀書複製會

大正十五年六月廿五日印刷
大正十五年六月卅八日發行

第四期
第十九回

編輯兼發行者　東京市牛込區富久町八十四番地　山田清作
影刻者　大塚祐次
印刷者　阿部鍋五郎　東京市牛込區富久町八十四番地
發行所　米山堂　電話四谷三四六一番　振替東京三三五〇九番